

**津山市における
就学前教育・保育カリキュラム**

**平成25年3月
津 山 市**

目 次

はじめに 津山市長	・・・・・・・・ P . 1
ごあいさつ 津山市教育委員会教育長	・・・・・・・・ P . 2
津山市における幼児教育の理念と展望	・・・・・・・・ P . 3
1. 津山市における就学前教育・保育カリキュラムの策定にあたって	・・・・・・・・ P . 4
子どもを取り巻く状況と子ども政策の動向	
津山市の現状と課題	
2. 津山市の育てたい子ども像	・・・・・・・・ P . 6
3. 年齢別カリキュラム	・・・・・・・・ P . 7
おおむね6ヶ月未満	
おおむね6ヶ月～1歳3ヶ月未満	
おおむね1歳3ヶ月～2歳未満	
おおむね2歳児	
おおむね3歳児	
4歳児	
5歳児	
4. 発達の特徴と育ちの連続性	・・・・・・・・ P . 22
5. 保育園(所)・幼稚園と小学校との連携	・・・・・・・・ P . 23
学びの連続性について	
特別な支援を必要とする子どもへの支援について	・・・・・・・・ P . 26
6. 津山市における就学前教育・保育カリキュラムの活用に向けて	・・・・・・・・ P . 28
資料	・・・・・・・・ P . 29
・津山市における就学前教育・保育カリキュラム作成の経緯	
・年齢別カリキュラム作業部会	
・津山市における就学前教育・保育カリキュラム作成委員会運営規程	
・津山における就学前教育・保育カリキュラム作成委員会名簿	
・津山における就学前教育・保育カリキュラム作成作業部会名簿	
作成を終えて	・・・・・・・・ P . 37

はじめに

乳幼児期における保育・教育は、子どもの生きる力や生涯にわたる人間形成の基礎を培う上で重要な役割を担っています。

津山市では、乳幼児を健やかに育てる事業の一つとして、このたび「津山市における就学前教育・保育カリキュラム」を作成しました。これは、0歳から5歳児までの子どもの発達の特徴を捉える中で、年齢別カリキュラム等を明らかにし、保育者の援助方法等を示したものです。

平成23年度、美作大学短期大学部の松岡信義教授を会長に、私立保育園、公立保育所、私立幼稚園、公立幼稚園の代表者、そして関係行政機関の職員で構成する同作成委員会、そして作成の中核を担う組織である作業部会を立ち上げ、津山市の子どもの実態を踏まえた熱心な話し合いを行ってきました。このように、就学前教育・保育関係機関が一堂に会した取り組みができましたことは、ひとえに津山市保育協議会や津山市民間保育事業協会、津山地区私立幼稚園連合会等の皆様のご理解とご協力の賜物であり、心から感謝申し上げます。

保育者の皆様には、今後、このカリキュラムを活用して一人一人の子どもの発達に応じた援助や、子育て環境の整備など保育の実践に役立てていただき、就学前教育・保育から小学校教育にかけての発達や学びがつながっていくことを期待しております。また、このカリキュラムをより良いものにするため、市内保育園(所)・幼稚園・小学校での実践を踏まえ、見直していきたいと考えておりますので、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

結びに、このカリキュラムが、より良き乳幼児保育・教育の一助となり、津山市の未来を担う子どもの学びと育ちが、より一層充実していくことを祈念いたします。

平成25年2月

津山市長 宮地 昭範

ごあいさつ

平素より保育園(所)・幼稚園関係者の皆様方には、津山市の乳幼児保育・教育の推進にご尽力をいただき、ここに深く敬意を表しますとともに、厚く感謝を申し上げます。

近年、少子高齢化、経済格差の拡大、核家族化の進行等により、子ども達を取り巻く環境は大きく変化し、現在、津山市においても、不登校・暴力行為等の問題、子ども達の学力低下、児童虐待、家庭や地域社会の教育力の低下等、様々な教育課題に直面しています。このような課題の解決には、就学前教育・保育と小学校教育の接続に向けての取組みが非常に重要であると認識されています。

津山市は、従来から私立保育園、公立保育所、私立幼稚園、公立幼稚園において、それぞれが特色を活かし、日々向上心をもって就学前教育・保育を実践していただいておりますが、平成23年度に策定しました「津山市教育振興基本計画」では、さらなる幼児教育の充実に向けて「津山市における就学前教育・保育カリキュラム」を重点的に取り組む施策としました。

このカリキュラムの作成にあたっては、「津山市における就学前教育・保育カリキュラム作成委員会」により、熱心かつ丁寧に検討が重ねられ、保育園(所)・幼稚園での育ちと小学校教育への接続を考慮に入れながら、0歳から5歳児までの発達を見通した連続性のある保育・教育を実践するためのカリキュラムとして画期的な成果となりました。

今後は、このカリキュラムの活用により、保育園(所)・幼稚園・小学校が連携を深め、就学前教育・保育と小学校教育とが、よりスムーズに接続できるよう努めていかなければならないと考えています。そして、この取組みが、津山市の子どもの幸せな成長に寄与することを心から願っています。

結びに、このカリキュラムを作成するにあたり、大変ご尽力いただきました津山市における就学前教育・保育カリキュラム作成委員会の皆様、保育園(所)・幼稚園関係者の皆様各位に対し、心から感謝を申し上げ、ごあいさついたします。

平成25年2月

津山市教育委員会教育長 田村 芳倫

津山市における幼児教育の理念と展望

幼児期の教育の大切さは、いかなる時代と社会においても説かれる普遍的な事象です。津山市においても、時代の推移と社会の変化に対応してきましたが、これまで公立と私立それぞれの幼稚園と保育所(園)の関係者が、幼児教育の制度や保育の内容と方法の改善・改革等を主題として一堂に会したことはありませんでした。津山市幼児教育検討委員会が設置されたいま、公・私・幼・保のそれぞれが重ねてきた経験と実績を今後の改善・改革に資すべきであるという願いのもと、私たちは、ここにあらためて津山市における幼児教育の理念を掲げ、理念が切り開く未来を展望しようとするものです。

私たちは、幼児教育とは「人生の最初期である幼児期の教育」のことであり、その幼児教育を実践する場面・言葉は「保育」である、という認識を共有しています。幼稚園、保育所の目的として、学校教育法と児童福祉法にそれぞれ掲げられている「保育」をこのように理解することで、保育内容の統合を推進し、その実現に努めます。

私たちは、まず何よりも、津山の子どもの現実から出発します。何世代にもわたって津山に住んでいる家族の子どもや最近転入してきた家族の子ども、保育所(園)に通っている子どもや幼稚園に通っている子ども、兄弟姉妹の多い子どもや少ない子ども、市街地に住んでいる子どもや農村部に住んでいる子ども等、生活条件はさまざまですが、一人ひとりの子どもの現実のなかで、その子どもにとっての最善の利益とは何かを常に念頭におかなければなりません。

私たちは、さまざまな条件において生活している子どもが、やがて大人になり社会人になっていく人生の最初期の教育を津山で受けることの意味の大きさを考えます。いつか人生の岐路に立ったとき、記憶のなかの風景や大切な人のかつての言葉が魂を奮い立たせてくれるように、津山の自然と人との関わりのなかで受けた幼児期の教育は、その人の心の深いところでの力となり、人生を励ます力になります。

私たちは、すべての子どもが健康な心と身体を育み、豊かな情操と賢さを身につけ、命と自然を尊び、自信をもって他者との信頼のなかで生きることがをめざします。そのため、保育環境の整備は、保育者や子どもの人数、保育施設の数と配置、地域の状況など、あらゆる人的・物的環境の検討を踏まえて行うことが重要です。

私たちは、さまざまな問題を抱えている子どもでも、すべての子どもが必要とされる幼児教育を受け、大事なことを身につけて成長していくことを願います。小学校への入学という節目までにすべての子どもが身につけておいて欲しいと願われることからの水準に関し、幼児教育の内容と方法の検討を進めます。

私たちは、子ども時代に十分に愛情をかけられ、優しい心をもつように育てられた人が、大人になってから周囲の人々に愛をもって接し、優しさを差し伸べることを知っています。幼児期の教育が生涯を通して培われる自己教育の礎となることを考えるとき、どの子どもにも隔てのない愛情と優しさがそそがれる環境が用意される必要があります。父母その他の保護者、地域の大人そして幼児教育に携わる人々は、連携して、このような環境の創出とその維持に努めます。

平成22年3月に策定された「津山市立幼稚園将来計画」より抜粋

1. 津山市における就学前教育・保育カリキュラム策定にあたって

子どもを取巻く状況と子ども政策の動向

近年の子どもを取巻く状況をみると、急速な少子化や核家族化の進行、共働き世帯の増加に加え、地域のつながりが希薄になり、家庭や地域の子育て力・教育力が低下するなど、環境として厳しい現実があります。

このような社会状況の中で、子どもたちは生活体験や自然体験が不足し、他者とのかわりの機会も少なくなってきました。そのため、基本的な生活習慣が身についていない、自制心や耐性・規範意識が十分に育っていない、運動能力が低下している、といった問題も指摘されており、保育園（所）・幼稚園における幼児教育の果たす役割は、非常に重要性を増してきています。

今後の方向性として、まず第一に、研修等を通じて保育士・教員等の資質や専門性の一層の向上を図り、保育園（所）・幼稚園における乳幼児の健やかな育ちをしっかりと保障することが求められます。そして、乳幼児保育・教育の充実が、家庭・地域社会へと大きく広げられるとともに、その成果を円滑に小学校に引継ぐことができるように連携を進めていかなければなりません。

津山市の現状と課題

津山市においても、少子高齢化のなか核家族化が進み、かつてのような家族や知人、地域の人々による家庭の子育てをサポートする体制が弱まってきており、家庭の養育力・教育力の低下が懸念されています。また、共働き家庭の増加等により、子育て支援に関する市民ニーズが多様化する中で、幼稚園においては園児数が減少し、保育園（所）においては入園希望者が増加している状況です。

こうした中で、私立保育園23園、公設民営保育所2園、公立保育所3園、私立幼稚園3園、公立幼稚園14園は、共に併存する乳幼児保育・教育機関として、それぞれが重ねてきた経験や実績を活かし、特色のある保育・教育を実践しています。

今後においては、これまで以上に保育園（所）と幼稚園が連携を強めることが不可欠であり、そのために、「発達に応じた育ちや学びの連続性」を踏まえたカリキュラムを共に作成し、保育課程・教育課程に位置づけた保育・教育を実践することで、子どもの最善の利益を保障していくことが求められています。

さらには、関係機関が一体となって研修等を深め、乳幼児保育・教育に携わる者の資質・専門性を高めることが必要です。

また、津山市でも、入学したばかりの1年生が環境の変化になじめない「小1プロブレム」といわれる現象がみられることもあり、子どもの成長・発達連続性と一人一人の子どもの健やかな育ちを願う保育園(所)・幼稚園・小学校の連携の重要性が増しています。このため、育ちと学びを小学校へとつなげる為に、各保育課程・教育課程に位置づけるなどの取り組みをしていかなければなりません。

近年、特に支援や配慮を必要とする乳幼児が増加しており、保育園(所)と幼稚園での理解や対応が非常に重要となっています。このような中、より細やかな対応が出来るように各保育園(所)・幼稚園や関係機関で適切な研修を行うなど、保育・教育内容の向上を図っていく取り組みが進んでいます。今後は、受入れに対するより専門的な知識をもった職員を育成することや、特別な支援における拠点的機能を有する施設の在り方などが課題となります。

津山市においては、平成19年度に今後の公立幼稚園の方向性についての検討がなされ、平成20年度には津山市における幼児教育の歴史において、初めて市内の公立・私立それぞれの保育園(所)・幼稚園の関係者が一堂に会し、「津山市幼児教育検討委員会」が開催されました。

注1)

そして、「津山市における幼児教育の理念と展望」を示し、この「理念と展望」に基づいた保育・教育を実践するための「津山市の子ども保育カリキュラム」に基づいて、保育園(所)と幼稚園が連携し、乳幼児保育・教育の推進を図っていくことを目指しました。しかし、実際の取り組みが浸透せず、実践が課題となっています。

このため、「理念と展望」に基づいた保育・教育を実践するために、改めて関係者が共に「津山の子どもを育てる」という共通の認識に立ち、「津山市における就学前教育・保育カリキュラム」を作成することとなりました。

注1)

「津山市における幼児教育の理念と展望」は、平成22年3月に策定した「津山市公立幼稚園将来計画」において、「津山市における幼児教育の基本理念」として定められました。

2. 津山市の育てたい子ども像

- ・児童福祉法
- ・学校教育法

津山市教育基本理念

「つなぐ力」を育む
 ~あなたとわたし、学校・家庭・地域、そして世代を超えて~



小学校への接続

津山市における幼児教育の理念と展望

津山市の育てたい子ども像

健康な心と体の子ども
 自信をもって他者との信頼の中に生きる子ども
 命と自然を尊ぶ子ども
 豊かな情操と賢さを身につけた子ども



保育園（所）・幼稚園

保育所保育指針・幼稚園教育要領

教育にかかわる
 ねらいと内容
 5領域 健康・人間関係・

養護にかかわる
 ねらいと内容
 生命の保持
 情緒の安定

津山市の子ども保育カリキュラムより共通目標

平成21年作成内容

育つ力

教育にかかわる内容

健康な心と体

戸外でしっかり遊ぼう
 生活リズムをつけよう
 なんでも食べよう

自信と信頼

力をあわせて取り組もう
 自分でやってみよう
 まわりの人の気持ちを考えよう

命と自然

自然にふれよう
 ものを大切にしよう

豊かな情操と賢さ

絵本などに親しもう
 ことばや体を使って伝えよう

健康

身体・運動機能
 基本的な生活習慣など

人間関係

人とかかわる力・自立心・協同・規範意識など

環境

好奇心・探究心
 生活に取り入れる力など

言葉

話す・聞く
 言葉で表現する力など

表現

豊かな感性や表現力・創造性など

保育所保育指針・幼稚園教育要領の各領域の内容を参照

養 護

家 庭 ・ 地 域

3. 年齢別カリキュラム

- 7つに区分して示している。

おおむね6ヶ月未満
 おおむね1歳3ヶ月～2歳未満
 おおむね3歳児

おおむね6ヶ月～1歳3ヶ月未満
 おおむね2歳児
 4歳児
 5歳児

- おもな発達の特徴

発達の特徴と育ちの連続性より

《P.22 参照》

- 年齢別カリキュラム

区分別作業部会で作成したカリキュラム補助表より 《別冊参照》

年齢別カリキュラムの記述内容のポイント

発達 の 主 な 特 徴	<p>作業部会の資料より 津山の子どもの姿から発達の主な特徴を示している。 子どもの育ちへの見通しをもち、遊びや生活の様子・5領域に視点を置いて記述している。</p>	
（養護） ねらい （教育）	<p>年齢に応じて、子どもに育てたい生きる力の基礎となる心情・意欲・態度を示している。 全ての年齢に養護のねらいを示している。 教育のねらいは、「子どもが」主語、養護のねらいは、「保育者が」主語となっている。</p>	
経験 させ たい 内 容	健康 な 心 と 体	健康 健康
	自信 と 信 頼	人間 関 係
		環 境
	命 と 自 然	言 葉
	豊 か な 情 操 と 賢 さ	表 現
環 境 構 成 と 援 助	<p>年齢に応じて発達にふさわしい「ねらい・内容」が達成されるように、保育者が環境に対して行う働きかけを「環境構成」として記述し、保育者が直接子どもにかかわって行うさまざまな働きかけを「援助」として記述している。</p>	
（家庭・地域との 連携） （小学校等との 連携）	<p>家庭・地域（小学校等）と保育園（所）幼稚園の生活がつながり、発達に応じた育ちが促されるように連携の在り方を示している。</p>	

おもな発達の特徴 おおむね6ヶ月未満



理念	保育内容（5領域）		おもな発達の特徴
健康な心と体	健康	身体・運動機能	<ul style="list-style-type: none"> ○首がすわる。 ○寝返り、腹ばいになる。 ○上下左右に動くものを追視する。 ○目の前の物をつかもうとする。 ○手に触れたものを握る。
		基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> ○空腹になると、泣いてミルクをほしがる。 ○おしめが汚れていると、泣いて知らせる。 ○4ヶ月頃から、昼と夜の睡眠パターンができる。
自信と信頼	人間関係	人とかかわる力 自立心 協同 規範意識など	<p style="text-align: center;">愛着関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ○特定の大人にあやしてもらおうと、顔をじっと見たり、声を出して笑ったりする。 ○特定の大人とのスキンシップを喜ぶ。 <p style="text-align: center;">だっこだいすき</p>
		環境	<p>好奇心 探究心 生活に取り入れる力など</p> <ul style="list-style-type: none"> ○身の回りの物を見たり、音を聞いたり、触れたりする。
命と自然	言葉	話す力 聞く力 言葉で表現する力 など	<p style="text-align: center;">アー アー ウー ウー</p> <ul style="list-style-type: none"> ○機嫌の良い時に、人や物に反応して、「アーアー」「ウーウー」など喃語を発する。
		表現	<p>豊かな感性や表現力 想像力 描く 作る リズム など</p> <ul style="list-style-type: none"> ○快・不快を笑ったり泣いたりして、表情の変化や体の動きで表現する。

おおむね 6 ヶ月未満

発達 の 主 な 特 徴		<ul style="list-style-type: none"> ・哺乳量が一定し、授乳時間がほぼ決まってくる。 ・空腹になったり、眠くなったり、おしめが汚れたりすると、泣いたりぐずったりする。抱っこすると安心して機嫌がよくなる。 ・一日のうち睡眠と目覚めを何度も繰り返す。4ヶ月頃から眠っているときと目覚めている時がはっきり分かれ、夜と昼の睡眠パターンができる。 ・3ヶ月頃には、首がすわり、うつ伏せにすると両手で腹ばいになって上半身をそらす。 ・5ヶ月頃には寝返り、腹ばいをしようとする。 ・2ヶ月頃大人があやすと「ア・ウ」などクーイングを言う。上下左右に動くものを追視する。 ・保育者の声に反応したり、顔をじっと見つめたり見まわしたりする。目が合うと相手に微笑みかけたり、声を出して笑ったりする。 ・人や玩具に向かって喃語で話かけるようになり、あやしてもらおうと声を出して笑う。 ・手を口に持っていったり、指を口に入れようとする。また目の前の物をつかもうとする。 ・手に触れたものを握る。
養 護 （ 教 育 ・ ね ら い		<ul style="list-style-type: none"> ・特定の保育者とふれあい、安心して機嫌よく過ごし、愛着関係ができていく。 ・安全な環境の下で、腹ばい、寝返りなど、全身運動をする。 ・ゆったりとした雰囲気の中で、依存欲求を満たして、安心して過ごせるようにする。 ・一人一人の生活リズムに応じて、食欲・排泄・睡眠などの生理的要求を満たし、健康で安全に過ごせるようにする。
経 験 さ せ たい 内 容	健 康 な 心 と 体	<ul style="list-style-type: none"> ・お腹いっぱいミルクを飲み、安心して眠り、心地よい生活リズムで過ごす。 ・おしめが濡れた時は、おしめ交換をしてもらい、気持ちよさを感じる。 ・気温や室温に応じて、衣服を着替えさせてもらう。 ・授乳の前後は、顔や手を拭いてもらい、心地よさを感じる。 ・体調のよい時は、沐浴をしてもらい、気持ちよく過ごす。 ・腹ばいになり全身を動かす。 ・握る、つかむ、しゃぶるなどの動きを十分する。 ・赤ちゃんマッサージや体操をしてもらい、心地よさを感じる。
	人 間 関 係	<ul style="list-style-type: none"> ・優しく語りかけてもらったり、目を合わせて泣き声や喃語に応えてもらったりする。 ・抱っこしてもらい、ゆったりとした揺れを感じながら安心して過ごす。 ・特定の保育者とのスキンシップを喜ぶ。
	自 信 と 信 頼	<ul style="list-style-type: none"> ・抱っこ、腹ばい、支えられて座るなど、体位を変えてもらうことで、視野が広がり周囲に関心を示す。 ・一人一人の生活リズムや体調に合わせて、短時間の外気浴をする。 ・保育者に見守られながら、身の回りのものを見たり、音を聞いたり、触れたりする。 ・毎日同じ場所で遊んだり、授乳してもらい安心して過ごす。
	自 然 と 命	<ul style="list-style-type: none"> ・優しく声をかけてもらったり、名前を呼んでもらったりすることを喜ぶ。 ・大人の語りかけに対して、喃語で応えたり、声を出して笑ったりする。
	豊 か な 情 操	<ul style="list-style-type: none"> ・快、不快の気持ちを声や泣き声で表す。 ・動くものや音の出るものを目で追ったり、聞いたりして喜ぶ。 ・手のひらに触れたものを握り、振って遊ぶ。 ・保育者にいろいろな歌をうたってもらったり、ふれあい遊びをしてもらったりして喜ぶ。
環 境 構 成 ・ 保 育 者 の 援 助		<ul style="list-style-type: none"> ・特定の保育士が、一人一人の子どもが出すサインや表情を見逃さず受け止め、やさしい言葉や笑顔で応答的に、丁寧にかかわり、信頼関係を築くようにする。 ・子どもの情緒の安定や身体的な発達に合わせて、色彩やベッドの配置などの保育室の環境を整える。 ・気候に応じて、室内の温度、湿度、換気などの調整をし、快適に過ごせるようにする。 ・口に入れても安全な玩具で、つまんだり握ったりできる物や、音のなる物、固さや感触の違う物などの遊具を用意しておく。 ・毎日、玩具の消毒や床の消毒などを徹底し、衛生面に配慮する。 ・一人一人の健康状態を把握し、異常を早期に発見し、適切に対応していく。 ・授乳はゆったりと首を支えて抱き、目を合わせてゆっくりと落ち着いて行うようにする。 ・睡眠時、保育者は保育室から離れることなく、環境条件や寝具の掛け方に注意すると共に、呼吸や顔色など状態をきめ細かに観察・記録する。SIDS（乳幼児突然死症候群）の予防をする。 ・子どもの状態に合わせて、クッションを使って腹ばいの姿勢を安定させたり、寝返ろうとする力を十分発揮できるように手を添えて援助したりして、発達を助長させていく。 ・保育者が玩具を振って見せたり、玩具を握らせたりして、目と手の協応を促す。 ・特定の保育者が、抱いたり微笑みかけたりして甘えなどの依存欲求を満たし、ゆっくり穏やかにかかわることで愛着心を育むようにする。 ・見る、聞く、触れるなどの経験が豊かになるように、安全な玩具を提供し、さまざまな感覚が楽しめるようにする。 ・身近な人とそうでない人の顔がわかるようになる時期なので、保育者は穏やかな表情で微笑みかけ、子どもの発した喃語にゆったりと語りかけるようにし、一対一のかかわりを大切にする。 ・わらべ歌、ふれあい遊びなどでスキンシップを大切に行ない大人との関係を深めるようにする。
（ 小 学 校 と の 連 携		<ul style="list-style-type: none"> ・家庭と園が一貫した生活リズムの中で、食欲、睡眠などの状態をありのままに受け止め、安心して園生活が過ごせるようにする。 ・保育者と直接話をする時間をつくったり、乳児連絡帳に子どもの記録を丁寧に書きとめたりして、園と家庭との連絡を密にして信頼関係を築き、子どもの育ちについて見通しがもてるようにする。 ・保育者は、保護者の不安や悩みを受け止め、共感したり子どもの成長の様子を喜び合ったりすることで、保護者自身が子育ての喜びを感じられるようにし、育児へのエネルギーになるようにする。 ・園でふれ合い遊びをした様子を伝えたり、参観日などでふれあい遊びの機会をもち、家庭でも親子で遊ぶヒントとなるようにかかわり方を知らせていく。 ・SIDS（乳幼児突然死症候群）の予防など、子育てに関する情報を提供する。

おもな発達の特徴 おおむね6ヶ月～1歳3ヶ月未満

理念	保育内容（5領域）		おもな発達の特徴
健康な心と体	健康	<p>身体・運動機能</p> <p>基本的な生活習慣</p>	<p>○座る、はう、つかまり立ち、伝い歩きなど全身を動かす。 ○両手に物を持ったり、引っぱったり、つまんだりする。 ○口の中に玩具を入れ、なめたり、噛んだりする。</p> <p>○離乳食を食べる。 ○いろいろな味に慣れる。 ○自分でつまんで食べようとする。</p>
	人間関係	<p>人とかかわる力 自立心 協同 規範意識など</p>	<p>○特定の大人とのかかわりができる。 ○後追いをし泣く。 人見知りをする。</p> <p>もぐもぐごっくん おいしいね</p> <p>人見知り</p>
自信と信頼	環境	<p>好奇心 探究心 生活に取り入れる力など</p>	<p>○好きな玩具で一人遊びをする。</p> <p>まんま プープー</p>
命と自然	言葉	<p>話す力 聞く力 言葉で表現する力 など</p>	<p>○簡単な言葉の意味がわかるようになる。 ○喃語が盛んになる。 ○指差し、身振りなどで気持ちや欲求を表す。 ○好きな絵本を読んでもらい、真似して言葉を発する。</p> <p>バイバイ ちょうだい</p>
豊かな情操と賢さ	表現	<p>豊かな感性や表現力 想像力 描く 作る リズム など</p>	<p>○興味をもった身近な素材に触れて、感触を楽しむ。 ○歌や手遊びに合わせて、喜んで手や体を動かそうとする。</p>

おおむね6ヶ月～1歳3ヶ月未満

発達 の 主 な 特 徴		<ul style="list-style-type: none"> 離乳が始まり、いろいろな味や形状のものが食べられるようになる。舌で押し出したり味を確かめたり飲み込んだり、口をもぐもぐ動かしたりして食べる。食べさせてもらったり、こぼしながらも手づかみやスプーンで食べようとしたりする。 午前睡・午後睡から一定時間安定して眠れるようになり、午後1回の昼寝になる。 タイミングが合えばオマルで排泄できることもある。 寝返り、座る、はう、つかまり立ち、伝い歩きなど全身をよく動かす。引っぱったり、つまむなど、手を動かし、探索活動が盛んになる。 特定の大人とのかかわりができてくる。甘えたり、後追いをしたり泣いたり、人見知りしたりする。 好きな遊具で一人遊びをするようになる。 簡単な言葉の意味がわかり始め「まんま」「プープー」など言葉をしきりに使ったり、「ありがとう」「バイバイ」「ちょうだい」など身振りを活発にする。「ちょうだい」と言うと、手に持っているものを渡そうとする。 歌や手遊びに、手拍子をしたり、体を揺らしたりして喜び、真似をしようとする。
(ねらい ・ 養育)		<ul style="list-style-type: none"> 保育者と一緒に全身を使った遊びやふれあい遊びを十分楽しむ。 身近な人に優しく繰り返し応答してもらうことで、愛着心や信頼関係を深めていく。 一人一人の子どもの生理的欲求を満たし、安定した生活リズムの中で気持ちよく生活が送れるようにする。
経験 させ たい 内 容	健康 な 心 と 体	<ul style="list-style-type: none"> 健康 離乳食を食べさせてもらったり、自分でつまんで進んで食べようとする。 さまざまな食品の味に慣れる。 おしめが汚れたら替えてもらい、気持ちよさを感じる。 個々のリズムで気持ちよく安心して眠る。 気温や体調によって、衣服の調節してもらい、気持ちよく過ごす。 保育者と一緒に手を洗ったり、鼻水をとってもらったりすることで、気持ちよさを感じる。 座る、はう、立つ、つたい歩きなど全身の動きを十分経験し探索活動をする。 両手に物を握って打ちつけたり、興味のある物をつまんだりして手を動かして遊ぶ。 思いを受け止めてもらい、優しく応答してもらうことで安心して過ごす。
	自 信 と 信 頼	<ul style="list-style-type: none"> 人間関係 人の顔がわかり、特定の保育者にあやしてもらうことを喜んだり、知らない人を見て泣いたりする。 保育者とのふれあい遊びやかかわりを喜ぶ。
	命 と 自 然	<ul style="list-style-type: none"> 環境 身近な小動物や身の回りの自然を見たり触れたりする。 好きな玩具、遊具に興味をもってかかわり、さまざまな遊びをする。
	豊 か な 情 操	<ul style="list-style-type: none"> 言葉 喃語が盛んになり、気持ちや欲求を「アーアー」「ウーウー」などと声にだしたり、表情や身振りで伝えようとする。 大人から自分に向けられた気持ちや簡単な言葉がわかり、次第に一語文で反応する。 好きな絵本を繰り返し読んでもらうことで、真似して言葉を発する。
	表 現	<ul style="list-style-type: none"> 表現 保育者と一緒に、歌や手遊びに合わせて、手や体を動かしたり、音を出したり、模倣したりして喜ぶ。 興味をもった素材（手形のインク・シールはがしのシールなど）の感触を楽しんで遊ぶ。
環 境 構 成 ・ 保 育 者 の 援 助		<ul style="list-style-type: none"> 離乳食は、一人一人に合わせて、保護者や栄養士、看護師などと連絡を取り合い、形状や量を話し合って進めるようにする。 自分から食べようとする意欲を大切に、一人一人の量や食べ方に合わせて介助していく。 排泄のタイミングや機嫌を見て誘いながら、一人一人に合った方法や言葉かけで、おしめ交換をする。 一人一人のリズムを大切にしながら、安心して午睡ができるようにする。 食事前や入室後などには手洗いをする習慣をつけるようにし、感染症予防や清潔な習慣が身につくようにする。 指先を使った遊びや寝返り、はう、伝い歩きなど全身を動かす遊びなど十分に楽しめるように、衛生的で安全な環境を整える。 好きな遊びを把握し、興味をもって遊びに集中し、一人遊びが満足できるように、スペースや時間や玩具を整える。 滑り台やマットを利用して、登る、すべる、転がるなどのさまざまな動きが楽しめるようにし、保育者はすぐに支えられる位置につき、安全に遊べるように配慮する。 健康状態を把握するために、定期的な検温する。 人見知り、不安、甘え、怒りなど、一人一人の感情表現をしっかり受け止め、応答やスキンシップなどで、保育者との愛着心が深まるようにする。 保育者間で、一人一人の子どもに対して共通した対応ができるよう連携をもつ。 子どもが興味を示すような、いろいろな色・形・音・材質の違う手作り玩具などを用意して、見たり、聞いたり、触ったりして感覚を楽しめるようにする。 自然を感じたり、自然物を見たり、触れたりできるような散歩コースを事前に確認する。 ベビーカーでの散歩や戸外での遊びでは、十分時間をとったり、子どもの指差しや片言に、言葉を添えて応答的にかかわったりして、驚きや発見に共感する。 喃語や片言、動作から欲求や興味に気づき、気持ちを代弁しながら、発語につながる言葉かけやかかわりを大切にしている。 優しい声で名前を呼びかけたり、歌をうたったり、喃語に回答して、保育者との一対一のかかわりを十分もつようにする。 子どもの好きな手遊びや曲を用意し、保育者と一緒に体をゆすって踊ることが楽しめるようにする。
(小 学 校 と の 連 携)		<ul style="list-style-type: none"> 保護者と子育てについての思いを共感し、信頼関係を築き、安心して子育てができるようにする。 相互の連絡帳（検温、食事、睡眠、排尿管、投薬等）や送迎時を通して、子どもの様子を伝え合い、状態を把握し、共通理解をする。 離乳食は、保育者、栄養士、保護者と連携を取り合い、形状や量を話し合って進めていく。 アレルギーの有無を尋ね、医師の診断や指示書の下、除去食の対応をする。 6ヶ月を過ぎると母体免疫が弱まり、感染症にかかりやすくなるので、クラス便りや口頭、掲示板などで、流行性疾患についての特徴や情報を伝え、予防してもらったり、早期発見、早期治療に努めてもらったりする。 園外保育で出会った人に保育者から声をかけたり、子どもと一緒に手を振ったりして地域の人とのかかわりをもつ。

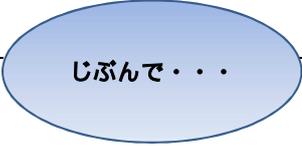
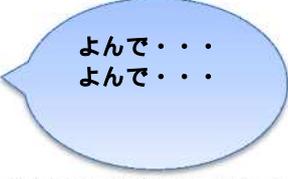
おもな発達の特徴 おおむね1歳3ヶ月～2歳未満

理念	保育内容（5領域）		おもな発達の特徴
健康な心と体	健康	身体・運動機能	<ul style="list-style-type: none"> ○歩けるようになり、探索活動が活発になる。 ○体のバランスのとり方が上手になる。（しゃがむ、ぶら下がる、跳ぶなど） ○積む、つまむ、転がす、はがすなど手や指を使って遊ぶ。 <p style="text-align: center;">探索活動</p>
		基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> ○離乳が完了し、幼児食を食べる。 ○スプーンやフォークを使って食べる。 ○食べ物の好き嫌いが出てくる。 ○身振りや簡単な言葉で排泄を知らせる。 ○ズボンや紙パンツを自分で脱ぐ。 ○手洗い、鼻かみなど自分でしようとする。
自信と信頼	人間関係	人とかかわる力 自立心 協同 規範意識など	<ul style="list-style-type: none"> ○保育者や友達のすることに関心を持ち、真似をする。 ○大人の反応を感じながら、よいこと悪いことに気づく。 ○一人遊びをする。
		環境	<ul style="list-style-type: none"> ○好奇心 探究心 生活に取り入れる力など ○水、土、砂などの感触を楽しむ。 ○自分の物と友達の物との区別がつきにくい。
命と自然	言葉	話す力 聞く力 言葉で表現する力 など	<ul style="list-style-type: none"> ○指差し、身振り、片言、二語文で思いを伝える。 ○興味のある絵本を読んでもらい、言葉を繰り返し言おうとする。 <p style="text-align: center;">一語文から二語文へ 語尾を真似た片言</p>
豊かな情操と賢さ		豊かな感性や表現力 想像力 描く 作る リズム など	<ul style="list-style-type: none"> ○いろいろな材料で感覚遊びをする。 ○腕を左右、上下、丸く動かしてなぐり描きをする。 ○リズムに合わせて、体を動かして遊ぶ。 <p style="text-align: center;">ぐるぐるかくの おもしろい</p>

おおむね1歳3ヶ月～2歳未満

発達 の 主な 特徴		<ul style="list-style-type: none"> ・時には手づかみになる事もあるが、スプーンやフォークを使って、こぼしながらも自分で食べようとする。食べ物の好き嫌いがでてる。 ・おしめをしている子どもが多いが、保育者に促されてトイレに行ったり、排泄した後、仕草や簡単な言葉で出たことを知らせることもある。 ・午後1回の昼寝になり、一定時間安定して眠れるようになる。 ・手洗いや鼻かみなど、保育者や友達の真似をして、自分でしようとする。 ・ズボンや紙パンツなどを自分で脱いだり上げたりし、簡単な衣服の着脱を保育者と一緒にしようとする。 ・身の回りのことを自分でやってみようとする気持ちが強くなり、保育者の援助を「いや」と拒んだりする。 ・体のバランスの取り方が上手になり、歩けるようになったり、しゃがんだり、ぶら下がろうとしたり、ジャンプしようとする。 ・歩行が安定し探索活動が活発になり、保育者に追いかけることを喜ぶ。 ・物を何かに見立てて遊んだり、人形を”とんとん”してあやす仕草など見立て遊びをする。 ・自分の物と友達の物との区別がまだつかないため、物を取り合うなど思い込みによるトラブルが頻繁に起きる。 ・保育者と簡単な言葉のやり取りができるようになり、指さし、身振り、片言で意思を表そうとする。またしだいに二語文を話し始める子どももいる。 ・繰り返しのある絵本や気に入った絵本、ペープサートなどを喜んで見る。 ・簡単な歌やリズムに合わせて、体をゆすったり動作を真似てする。 ・貼ったりはがしたりして遊んだり、なぐり描きをする。
(教育・養護)		<ul style="list-style-type: none"> ・探索活動をする中で、身の回りのことにも興味をもちながら、一人遊びを十分楽しむ。 ・保育者や友達とかがわる中で、いろいろな言葉を獲得し、使うことを楽しむ。 ・ゆったりとした家庭的な雰囲気大切に、一人一人の甘えや欲求が十分に満たされるようにする。 ・「自分で」という気持ちに、丁寧に応えながら、身の回りのことを自分なりにしようとする気持ちが満たされるようにする。
経験 させ たい 内容	健康 な 心 と 体	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しい雰囲気の中で、スプーンやフォークなどを使って自分で食べる。 ・おしめやオマルに排泄した後、仕草や言葉で知らせたり、便器での排泄を試みる。 ・促されて布団に入り、一定時間睡眠や休息をとる。 ・自分で顔や手を拭き、気持ちよさを感じる。 ・ズボンや靴下など簡単な衣服を脱いだり、時にははいてみたりする。 ・盛んに歩いて探索活動をしたり、走ったり、跳んだり、しゃがんだりして全身を使って遊ぶ。 ・積む、つまむ、転がす、はがすなど手や指を使って遊ぶ。 ・「自分で」という気持ちを受け止めてもらいながら、自分でやってみようとする。
	関 人 係 間	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者に見守られながら、安心して好きな遊びを楽しんだり、かがわってもらうことを喜ぶ。 ・保育者や友達のしていることに関心をもち、真似したり一緒にやってみようとしたりする。 ・周りの大人の反応を感じながら、よい事と悪い事があることに気づく。
	信 頼 と 自 信	<ul style="list-style-type: none"> ・探索活動の中で、さまざまな物を見たり触れたりする。
	環 境	<ul style="list-style-type: none"> ・散歩や戸外遊びを通して、虫や草花など自然に親しむ。 ・水、土、砂などの自然物にふれて遊び、感触を楽しむ。
	命 と 自 然	<ul style="list-style-type: none"> ・指差し、身振り、片言、二語文などで思いを伝えようとする。 ・名前を呼ばれて返事をしたり、保育者の言葉を真似て言おうとする。 ・繰り返しや興味のある絵本を読んでもらい、簡単な言葉の繰り返しを楽しんだり、模倣して遊んだりする。
	豊 か な 情 操	<ul style="list-style-type: none"> ・歌をうたったり、保育者とリズムに合わせてたりして、体を動かして遊ぶ。 ・いろいろな素材を使って、感覚遊びを楽しむ。(フィンガーペイント、紙粘土、小麦粉・片栗粉・米粉粘土、スライム、砂、土など) ・腕を左右、上下、丸く動かして、なぐり描きをする。
環 境 構 成 ・ 保 育 者 の 援 助		<ul style="list-style-type: none"> ・自分で食べようとする気持ちを大切にしながら、一人一人の量や食べ方に合わせて介助していく。またスプーン、フォークの正しい持ち方を知らせる。 ・排泄のタイミングを見て誘いながら、無理強いわせずオマルや便器に慣れたいけるようにする。 ・一人一人の生活リズムに応じて、安心して午睡や休息ができるようにゆったりとしたかわりをする。 ・衣服の着脱がうまくできた時は、しっかり褒めたり、さりげなく手を添えるなど、自分でできた喜びが感じられるようにする。 ・食事の前やトイレに行った後、手を洗うように促したり自分でしようとする姿を見守ったりして習慣がつくように繰り返し援助する。 ・保育者は、表情や言葉でわかりやすく、その場をとらえ褒めたり励ましたりしながら、よい事悪い事を伝えていく。 ・自由に歩ける場を広くとり、自分の意思で安全に歩けるようにする、 ・くぐったり、登ったり、すべったり、転がしたりなど全身を使う遊具や、はさんだり、入れたり、動かしたりする玩具や素材を用意する。 ・自己主張の少ない子には、生活や遊びの場面を通して、気持ちが出せるようにかかわる。 ・ぶつかり合いや噛みつき、ひっかきなど起こる時期なので、子どもの行動や遊びを見守り、お互いの気持ちをくんで危険な時には止めるようにする。 ・遊具の取り合いなどトラブルの時は、子どもの言語化できない気持ちを受け止め、言葉にして返したり、子どもと子どもをつなぐような仲立ちを繰り返す。 ・見立て遊びができる生活用具や玩具を用意して、保育者と一緒に遊びながら楽しめるようにする。 ・安全な環境の中で、散歩に数人ずつ出かけ、自然物を見たり、触れたりする機会を多くもつ。 ・一語文から二語文への移行期や語尾を真似た片言期なので、子どもの言葉に含まれていない気持ちを汲み取り言葉に置き換えていく。 ・繰り返しの言葉のある話や絵本を何度も楽しみながら、子どもが繰り返す言葉を一緒に言ったりする。 ・安全に配慮しながら遊びの中で可塑性のある素材や物を用意し、感触を楽しめるようにする。 ・保育者は生活や遊びの中で、子どもの好きな手遊びや歌を繰り返したい、リズムや言葉、身振りを楽しめるようにする。
(小 学 校 と の 連 携)		<ul style="list-style-type: none"> ・連絡ノートや送迎の時間を利用して、園での様子を伝え安心感をもってもらう。 ・子育ての喜びや悩みなどに共感しながら信頼関係を築いていく。 ・友達との物の取り合いやトラブルも見られる時期なので、トラブルも成長の段階であることを伝える。またトラブルが起きた時にはその原因や状況を伝えて理解してもらう。 ・家庭や保育所の様子を伝えあいながら、食事・睡眠・排泄・遊びなどの生活リズムを整えることが心身共に安定した生活につながることを理解しあう。 ・散歩や行事を通して、地域の方とふれ合いをもつようにする。 ・「自分でやりたい」ことが、成長の過程であることを伝え、子どもの気持ちを受け止めて、待つ姿勢も大切であることを伝える。

おもな発達の特徴 おおむね2歳児

理念	保育内容（5領域）		おもな発達の特徴
健康な心と体	健康	身体・運動機能	<ul style="list-style-type: none"> ○全身を使って、歩く、走る、跳ぶなどの運動をして遊ぶ。 ○指先の機能が発達する。
	健康	基本的生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> ○スプーンやはしなどを使って、こぼしながらも自分で食べる。 ○自分でトイレに行き排泄しようとする。 ○衣服の前後が少しずつわかる。 ○ズボンやパンツを着脱する。 
自信と信頼	人間関係	人とかかわる力 自立心 協同 規範意識など	<ul style="list-style-type: none"> ○保育者や友達と簡単なごっこ遊びを喜んでいます。 ○自己主張が強く、トラブルが起こる。  
	環境	好奇心 探究心 生活に取り入れる力など	<ul style="list-style-type: none"> ○物の大きさや形の違いに気が付く。 ○自分の物を片付ける場所がわかる。 ○虫や草花をじっと見たり触ったりする。
命と自然	言葉	話す力 聞く力 言葉で表現する力など	<ul style="list-style-type: none"> ○言葉で自分の思いを伝えようとする。 ○簡単な繰り返しやリズムカルな言葉の絵本を喜ぶ。  
豊かな情操と賢さ	表現	豊かな感性や表現力 想像力 描く 作る リズム など	<ul style="list-style-type: none"> ○指先を使った遊びやはさみ・クレパスを使って遊ぶ。 ○季節の歌をうたったり、リズムカルに体を動かしたりすることを喜ぶ。

おおむね2歳児

発達 の 主 な 特 徴	<ul style="list-style-type: none"> ・スプーン、フォーク、はしなどを使ってこぼしながらも自分で食べる。 ・トイレに行って排泄するようになるが、後始末できないところは保育者に手伝ってもらう。 ・衣服の着脱を自分でしようとし、衣服の前後が少しずつわかるようになり、保育者と一緒にたたむことができる。 ・保育者に見守られながら、手洗いや鼻水拭きなどを自分でしようとする。 ・戸外で、かけっこやジャンプなど全身を使って遊ぶ事を楽しんでする。 ・保育者や友達と一緒に簡単なごっこ遊びを喜んでする。 ・遊びに簡単な約束があることが、少しずつわかってくる。 ・友達とかかわりながら遊ぶ姿が増えてくるが、自己主張が強くなり、トラブルになる事も多い。 ・自分の物を片付けるロッカーなどの場所がわかる。 ・保育者や友達と手をつないで散歩に出かけ、歌をうたったり、虫や草花などをじっと見たり触ったりする。 ・友達とかかわって遊ぶ中で、十分ではないが自分の思いを言葉で伝えようとしている。 ・簡単な繰り返しやりリズムカルな言葉の絵本を喜び、「よんで」と繰り返し要求する。 ・粘土遊びやはし遊び(豆つかみなど)など指先を使った遊びや、はさみ、クレヨンなどを使って作ったり描いたり遊びが広がる。 ・保育者や友達と一緒に、季節の歌をうたったり、リズムによって体を動かしたりすることを喜んでする。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者に手伝ってもらいながら、簡単な身の回りのことが自分でできる喜びを味わう。 ・保育者や友達と一緒に、言葉のやり取りをしたり、体を動かして遊ぶことを楽しむ。 ・生活や遊びの中で一人一人の気持ちを十分受け止め、安心して過ごせるようにする。 ・気温の変化や体調に留意し、健康に過ごせるようにする。 	
経験 させ たい 内 容	健康 な 心 と 体	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しい雰囲気の中で、スプーンやフォーク、はしの持ち方や座る姿勢に気をつけながら食事をする。 ・尿意、便意を言葉で知らせ、自分でトイレに行き排泄しようとする。 ・自分で布団に入り、一定時間眠る。 ・保育者に見守られて、手洗い、うがい、口拭き、鼻水拭きなどを丁寧にする。 ・簡単な衣服の着脱を自分でしようとする。 ・保育者や友達と一緒に散歩や戸外で、歩く、走る、跳ぶなど体を動かして遊ぶ。 ・保育者に温かく受け入れてもらい、自分の気持ちを安心して表す。
	自 信 と 信 頼	<ul style="list-style-type: none"> ・生活や遊びを通して、友達とかかわることを楽しむ。 ・保育者や友達と一緒に簡単なごっこ遊びや集団遊びをする。 ・友達と遊ぶ中で、保育者が仲立ちとなり、簡単な約束や順番を知る。 ・行事やごっこ遊びの中で、異年齢児とかかわり親しみをもつ。
	環 境	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者や友達と一緒に、水、砂、泥などの遊びを楽しむ。 ・身近な小動物、草花や栽培している野菜などを見たり触れたりして興味や関心をもつ ・季節の行事に興味をもって参加する。 ・自然物を使って遊ぶ中で、大きさや形の違いに気づく ・自分の見たこと、経験したことを言葉で表そうとする。
	命 と 自 然	<ul style="list-style-type: none"> ・遊具などを実物に見立てて簡単なごっこ遊びを楽しむ中で、保育者や友達と言葉のやり取りを楽しむ。 ・保育者と一緒に絵本の登場人物になり、言葉の模倣をする。
	豊 か な 情 操	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な物語に興味をもって喜んで聞いたり、繰り返しの言葉を楽しんだりする。 ・保育者や友達と一緒に季節の歌をうたったり、踊ったり、簡単な楽器を鳴らしたりして表現して遊ぶ。 ・ちぎったり、切ったり、貼ったり、折ったり、描いたりして制作したものを飾ったり使って遊ぶ。 ・保育者と一緒に絵本の中の登場人物になって表現して遊ぶ。
	環 境 構 成 ・ 保 育 者 の 援 助	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で食べようとする気持ちを受け止め、安全に無理なくはしが使えるように援助したり、「茶碗を持って食べれるね」など、マナーについても意識ができるように声をかけていく。 ・排便の始末の仕方を知らせ、自分でしようとする子どもの様子を見守りながら、必要に応じて手助けをしたり、確めをしたりする。 ・着脱は、側で見守りながら、できた時は褒め、自分でできた喜びを感じられるようにする。うまくできないところは手伝いながら自分でできるように促す。 ・「きれいになったね」「気持ちいいね」などの言葉をかけながら、鼻水の始末をする姿を見守り、拭き残しは保育者がきれいにする。 ・保育者や友達と一緒に走ったり、跳んだり運動遊びをする中で、全身を動かして遊ぶ心地よさが感じられるようにする。また危険な時にはすぐ手が出せるように、子どもから目を離さないようにする ・ロッカーや靴箱などと同じマークを貼り、自分の持ち物の場所がわかるようにする。 ・友達とトラブルになった時は、保育者が双方の思いを汲み取り、言葉にして相手に思いを伝えられるように仲立ちをする。 ・保育室は明るく清潔に整え、親しみやすく、楽しい雰囲気にする。 ・一人一人の好きな遊びを知り、楽しく遊べるよう、遊具の数を十分用意したり、安全な環境を用意したりする。 ・安全に留意し散歩に出かけ、自然と触れ合う中で、子どもの発見や驚きに共感し自然に親しめるようにする。 ・子どもの話は、優しくゆったりと受け止め、話したいという気持ちを十分満たすことができるようにする。 ・子ども同士言葉で気持ちを伝え合うことができるよう、保育者が仲立ちとなって言葉の足りないところは補いながら言葉を交わす喜びや楽しさが味わえるようにする。 ・ちぎったり、切ったり、貼ったり、折ったり、描いたりできるいろいろな道具や素材を用意し、保育者も一緒に遊び、表現する事の楽しさを共有する。 ・安全に使えるよう見守ったり手を添えたりして、はさみやのりの使い方を知らせる。 ・少人数でゆっくりと製作が楽しめるよう、場所や時間などゆとりをもって計画する。
(小 学 校 と の 連 携)	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの健康状態について、連絡ノートなどでこまめに伝え合う。 ・できるだけ薄着に心がけてもらい、動きやすく調節しやすい衣服を用意してもらおう。 ・皮膚の炎症や感染症などの流行する季節には、症状、予防などについて情報を提供し、予防、早期発見、治療に協力してもらおう。 ・子どもが自分で頑張っていることややさしい行動など、園での姿を伝え、家庭でも認めてもらえるように連絡を密にする。 ・「自分で」「いや」と自己主張をする時期であることを知らせ、家庭では子どもの思いをしっかり受け止め、見守ってあげることが大切であることを伝える。 ・地域の伝統行事に親しんだり、興味もてるよう行事の情報提供をする。 ・遠足や園外保育を通して、挨拶をしたり、地域への関心もてるようにしていく。 	

おもな発達の特徴 おおむね 3 歳児

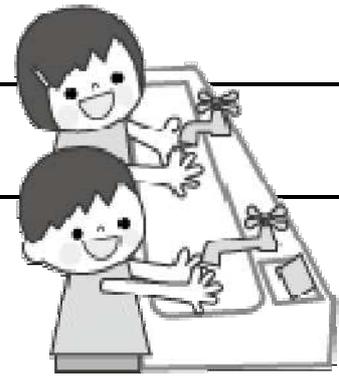


理念	保育内容（5領域）		おもな発達の特徴
健康な心と体	健康	身体・運動機能	○自分の体をコントロールしながら、走る、跳ぶ、投げる、蹴るなどの運動をして遊ぶ。
		基本的生活習慣	○食事や排泄は個人差があるが、ほぼ自分でできるようになる。 ○衣服の着脱は、裏返し・ボタン掛け・ファスナーなどの仕方を知り、自分でしようとする。
自信と信頼	人間関係	人とかかわる力 自立心 協同 規範意識など	○自己主張する。 ○簡単なルールのある遊びをすることで、合図や順番、交代などの約束を知る。 <div style="text-align: center; border: 1px solid blue; border-radius: 50%; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;">じぶんでするよ</div>
		環境	好奇心 探究心 生活に取り入れる力など
命と自然	言葉	話す力 聞く力 言葉で表現する力 など	○「なぜ」「どうして」と尋ね、いろいろなことに興味関心をもつ。 ○挨拶を自分からする。 ○絵本などを繰り返し見たり聞いたりする。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin: 10px 0;"> <div style="border: 1px solid blue; border-radius: 50%; padding: 10px; width: 150px; text-align: center;">おはよう ありがとう</div> <div style="border: 1px solid blue; border-radius: 50%; padding: 10px; width: 150px; text-align: center;">なぜ どうして</div> </div>
		表現	豊かな感性や表現力 想像力 描く 作る リズム など

おおむね3歳児

発達子どもの主な特徴		<ul style="list-style-type: none"> ・食事や排泄面は個人差があるが、ほぼ自立できるようになる。はしを持って食事をしようとするが、こぼれがちである。また、にぎりばしの子どももいる。 ・排泄は、失敗することもあるが、自分からトイレに行こうとする姿が見られる。 ・生活の仕方がわかってきて、身の回りのことを自分でしようとする。保育者に声をかけてもらいながらできるようになる。 ・ほぼ、自分の物と友達のものとの区別ができる。 ・周りの友達や遊びに関心をもち、活動範囲も広がり、自分から進んでいるいろいろな活動に取り組む姿が見られる。物などの取り合いによるトラブルがあり、自分中心に自己主張をする姿が見られる。自我意識が強くなり、反抗的な動きや言葉が見られる。 ・自分のしたい遊びを見つけることができ、落ち着いて遊べるようになる。同じ遊び場においても自分のしたい遊びをそれぞれが楽しみ、平行遊びをしている。 ・「ごっこしよう」と、友達を誘って一緒に遊ぼうとしたり、友達と同じことをして遊びたがったりする。一方で、遊びに入れない子どももいる。 ・順番や交代、並ぶなどの決まりがあることを知り、意識して生活や遊びをする姿が見られる。決まりが守れない友達に「いけんよ。」と言って教えてあげる姿も見られる。 ・野菜の栽培や小動物に関心を示し、好奇心をもって見たり、捕まえたり、触れたりして遊ぶ。 ・生活する中で「なぜ?」「どうして?」「これ何?」「どうするん?」と保育者に尋ね、知りたがるが増える。 ・クレパスやはさみ、のりなどの使い方は上手ではないが、自分なりに使って遊ぼうとする。
(教育・養護)		<ul style="list-style-type: none"> ・生活の仕方を知り、自分のことは自分でしようとする。 ・気の合う友達と一緒にいろいろな遊びを楽しむ。 ・遊びの中で自分の思いを表し、物を分け合って使ったり、順番を守ったりして、友達と一緒に遊ぶことを楽しむ。 ・保育者や友達と一緒に自然事象に興味関心をもち、自然に親しむ。 ・経験したこと、思ったこと、感じたことなどを自分なりに表現することを楽しむ。 ・季節の変化に応じて、保健的で安全な環境を作り、快適に過ごせるようにする。
経験させたい内容	健康な心と体	<ul style="list-style-type: none"> ・はしの使い方を知り、よい姿勢で食事をする。 ・衣服の着脱、排泄、手洗い、うがいなど身の回りのことを進んでしようとする。 ・上着の着脱(裏返し・ボタン掛け・ファスナーなど)の仕方を知り、自分でできることは自分でする。 ・自分の体をコントロールしながら、走る、跳ぶ、投げる、蹴るなどの運動をして遊ぶ。
	人間関係	<ul style="list-style-type: none"> ・友達が持っているものや、やっていることを真似て遊ぶ。 ・友達や保育者の手伝いを喜んでする。 ・順番を守ることや友達と分けることなどの決まりを知る。 ・トラブルを経験しながら、少しずつ友達の気持ちに気付く。
	環境	<ul style="list-style-type: none"> ・生活や遊びの中で、物の色や形、量、数などに興味をもつ。 ・「おもしろそう」「やってみたい」という気持ちをもち、繰り返し遊ぶ。 ・身近な小動物と触れ合う中で、生命があることを知り、大切にす。
	命と自然	<ul style="list-style-type: none"> ・生活や遊びの中で、自分の要求や思いを言葉で伝えようとする。 ・保育者や友達の話に興味をもって聞く。 ・いろいろな場面で「なぜ?」「どうして?」「これ何?」「どうするん?」と尋ね、いろいろなことに興味関心をもち。 ・「おはよう」「ありがとう」などの挨拶を自分からする。 ・絵本や紙芝居などを繰り返し見たり聞いたりする。
	豊かな心情	<ul style="list-style-type: none"> ・見立て遊びをしたり、イメージしたりしたものを作り、ごっこ遊びに取り入れて遊んだりする。 ・いろいろな素材を使って、描いたり作ったりして遊ぶ。 ・保育者や友達と一緒に歌ったり、簡単な楽器を使ったりして遊ぶ。 ・描いたり作ったりしたものに、意味付けをして遊ぶ。
環境構成と援助		<ul style="list-style-type: none"> ・個人差に応じて、丁寧に食事の時のマナー(良い姿勢など)を知らせながら、楽しい雰囲気の中で食事ができるようにする。 ・一人一人のはしの持ち方を確認し、個々に手を添えて正しい持ち方を教えたり、絵図を見せたりして意識づけていく。 ・健康に関する絵本や紙芝居などを利用し、手洗い・うがいの必要性を知らせ、保育者も一緒に手本を示しながら、丁寧に仕方を知らせる。進んでいる子どもを認め、周りの子どもたちも「やってみよう。」「ばくも出来た。」という気持ちもてるようにする。 ・身支度や後始末には、時間にゆとりをもち、日々の繰り返しの中で身につけられるようにする。 ・遊びをやめる時には片付けをすることを知らせ、保育者と一緒に片付けるようにする。 ・手伝いや片付けがしやすいように、わかりやすく表示するなど収納の仕方を工夫する。 ・簡単なルールのある遊びをすることで、合図や順番、交代などの約束が少しずつ理解できるようにする。 ・ごっこ遊びに保育者も仲間になり、言葉のやりとりを一緒にしながら、楽しい雰囲気の中で、なりきって遊ぶ楽しさが味わえるようにする。 ・友達とかがわって遊ぶ中で、気持ちをコントロールして、相手の思いを受け入れたり、我慢できたりした時にしっかり褒める。 ・自然事象を見たり触れたりして遊び、子どもの驚きや発見を大切に、「なぜ?」「どうして?」という子どもたちの好奇心に応えるようにする。 ・子どもの興味関心や季節に応じて、イメージを豊かにできるような絵本や紙芝居などを選んで、読み聞かせをする。 ・子どもが繰り返し遊べる素材・用具を準備したり、場所の確保をしたりする。保育者も仲間になって遊びながら、安全なはさみの扱い方、のりの適量を知らせる。 ・自然に体を動かしたくなるようなリズムカルで親しみやすい曲を取り入れ、喜んで表現できるようにする。
(小学校等との連携)	家庭・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭においても、子どもが自分の事を自分でしようとしている姿を大切に見守り、時間がかかっても待ったり、励ましたり、褒めたりしてかかわることが大切なことを知らせる。 ・正しいはしの持ち方の絵図を配布したりして、家庭でも意識して取り組めるようにする。 ・保護者の声に耳を傾け、子どもの心の状態を教えてもらったり、園での様子について知らせたりして、安定した気持ちで過ごせるようにする。 ・家庭においても子どもがいろいろと知りたがって、尋ねてくることに答えるなど、優しくかかわってあげるように知らせる。 ・散歩などを通して、地域の人に挨拶をしたり、親しみをもてるようにする。

おもな発達の特徴 4歳児

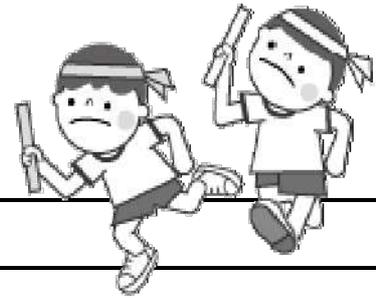


理念	保育内容（5領域）		おもな発達の特徴
健康な心と体	健康	身体・運動機能 体のバランス 協応動作	○全身のバランスをとって、運動遊びをする。 ○運動遊びや集団遊びなどを簡単なルールを守って、楽しんでする。
		基本的な生活習慣	○手洗い・うがい、衣服の調節など生活に必要な習慣が身につく、自分でできることは自分でする。 ○危険な場所や遊具の安全な使い方を知り、気をつけて遊ぶ。
自信と信頼	人間関係	人とかかわる力 自立心 協同 規範意識など	○仲間意識が芽生え、友達と誘い合って遊ぶ。 ○ルールの大切さに気付き、交代したり、順番を待ったりする。
命と自然	環境	好奇心 探究心 生活に取り入れる力 など	○遊具・用具の扱い方を知り、友達と準備をしたり片付けたりする。 ○いろいろな事に興味関心を持ち、やってみよう自分から取り組み、自分の力を発揮する。
豊かな情操と賢さ	言葉	話す力 聞く力 言葉で表現する力 など	○自分の思いや考えを言葉で話したり、相手の話を聞き、友達の気持ちに気付いたりする。 ○絵本などのストーリーからイメージを広げる。
	表現	豊かな感性や表現力 想像力 描く 作る リズム など	○いろいろな方法で表現し、イメージを膨らませ、なりきって遊ぶことを楽しむ。

4 歳児

発達 こと もの 特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・手洗いうがいなど生活に必要な習慣が次第に身に付き、自分でできることは自分でしようとする。 ・自分の持ち物とみんなで使う物がわかり、分けて片づけることができる。片付けを途中でやめてしまう子どももいるなど個人差がある。 ・いろいろな遊びに挑戦しようとする。固定遊具の安全な使い方を知り挑戦して遊ぶ。今までできなかったことができるようになり、「先生、来て。見よって。できた。」と喜び姿が見られる。 ・気の合う友だちと誘い合ってじっくり遊ぶようになり、仲間意識が芽生え始めている。 ・保育者や友達と一緒に運動遊びや集団遊びなどのルールのある遊びを楽しむようになる。 ・自分の思いで遊ぼうとしたり、自分本位のルールを作ったりして、トラブルになることもある。ルールを守ったり交代して遊んだり、順番を待ったりできるようになり、次第に自分の気持ちを抑えたり、我慢したりできるようになる。 ・年長児や友達の姿を見て真似をしたりして遊び始める。また、自分からやってみようとする取り組み、少し抵抗のあることにも挑戦しようとする。競争心も見られる。 ・身近な自然に興味をもち、散歩や戸外遊びを通して、身近な小動物や草花などを見て、さまざまな発見を楽しみ、拾った木の葉や木の葉などを使って友達と一緒に色、形、大小を比べたりして遊ぶ。 ・自分の思いや考えを言葉で伝えられるようになる。また、次第に友達の話や考えを聞き、友達の気持ちに気付いていく。しかし、自分の思いが話せず、困った時に保育者を頼る子どももいる。また、言葉で相手に思いがうまく伝わらず、トラブルになることがある。 ・気の合う友だちと遊ぶ中で、イメージを膨らませ、互いの思いや考えを伝えたり、遊びに必要なものを作ったりして遊ぶ。 ・親しみのある物語や絵本を見たり聞いたりして、言葉のやりとりを楽しんだり、なりきってごっこ遊びをしたりする。 	
	養育 (教育) ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・健康で安全に過ごすための基本的な生活習慣を身に付け、進んでしようとする。 ・保育者や友達と一緒に戸外に出て体を動かして遊ぶことを楽しみながら、決まりやルールの大切さに気づき、守って遊ぶ楽しさを味わう。 ・いろいろな遊びに興味関心をもち、自分からやってみようとする取り組み、自分の力を発揮する。 ・季節の移り変わりを感知しながら、自然現象に興味をもってかかわり、さまざまな遊びに取り入れて夢中になって遊ぶ楽しさを味わう。 ・興味関心のある遊びを楽しむ中で、気の合う友達と見たこと、感じたこと、思ったことなどを自分なりに表現し、伝え合いながらつながりを深める。 ・季節の変化に応じて、健康で、安全な環境をつくり、進んで自分のことを自分でしながら快適に過ごせるようにする。
経験 させ たい 内容		健康 な 心 と 体
	関 係 人	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者や友だちと誘い合って、ルールの大切さに気づき、守って遊ぼうとする。 ・気の合う友達と一緒に、なりきったり、気持ちを伝え合ったりして遊ぶ。 ・自分なりに目標をもち、いろいろな遊びを繰り返し取り組む。 ・友達と一緒に遊具や用具を交代して使ったり、順番を待ったりする。
	自 信 と 信 頼	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろなことに興味関心をもち、好奇心をもってやってみようとする取り組み、試したり工夫したり、挑戦したりする。 ・飼育物や栽培物に興味をもち、見たり触れたり、保育者や友達と一緒に世話をしたり、生長を喜んだりする。 ・身近な遊具や用具などの扱い方を知り、それを使っていろいろな遊び方をして楽しみ、友達と一緒に準備したり片付けたりする。 ・自分の物や共同の物を大切に扱う。 ・自然の美しさや不思議さに興味や関心をもち、生活や遊びに取り入れ、夢中になって遊んだり、季節の移り変わりに気付いたりする。 ・遊びの中で、数えたり比べたり、分けたり集めたりして遊ぶ。 ・年中行事の意味や由来を知り、興味関心をもって、行事に参加し楽しむ。
	環 境	<ul style="list-style-type: none"> ・友達や保育者とのやりとりの中で自分の思いや考えを話したり、相手の思いや気持ちに気づいたりする。 ・保育者の話に、親しみをもって聞いたり話したり、したいこと、して欲しいこと、困ったことを言葉で伝えたりする。 ・絵本・紙芝居・視聴覚教材などを見たり聞いたりして楽しみ、イメージをふくらませて物語の世界の不思議さや面白さを味わう。
	命 と 自 然	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のイメージを膨らませ、いろいろな方法で表現したり、なりきってごっこ遊びを楽しむ。 ・友達と一緒に歌をうたったり、リズムに合わせて体を動かしたり、楽器の扱いを知り、楽器遊びや合奏をする。 ・はさみやのりの使い方に慣れ、描いたり作ったりして遊ぶ楽しさを味わう。
量 と 質 の 保 護	表 現	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のイメージを膨らませ、いろいろな方法で表現したり、なりきってごっこ遊びを楽しむ。 ・友達と一緒に歌をうたったり、リズムに合わせて体を動かしたり、楽器の扱いを知り、楽器遊びや合奏をする。 ・はさみやのりの使い方に慣れ、描いたり作ったりして遊ぶ楽しさを味わう。
	環 境 構 成 と 援 助	<ul style="list-style-type: none"> ・進んで身の回りのことをしている姿を見守り、必要に応じて声をかけたり手伝ったりして、自分でできたという満足感がもてるようにする。 ・食事をする時の姿勢や、食事中は大きな声で話さない、話に夢中になり過ぎない、食器に手を添えるなど、みんなでおいしく食べるための食事のマナーを知らせ、子どもたちが意識して食事ができるようにする。 ・食べ物と体の関係を話し合ったり、視覚教材を工夫したりして、何でも食べることの大切さを知らせる。 ・感染症などの予防には手洗いうがいが大切であることを知らせ、丁寧に行えるように指導する。 ・衣服の調節は気温や遊びに応じて、一人一人の体調にあわせて細かく配慮していく。 ・気の合う友達と一緒に遊ぶ中で、一人一人の子どもがどのように遊ぼうとしているか察し、それぞれの思いが違ふことを受け止め、自分のやりたいたいことができるように必要に応じて遊具や用具を加えたり、互いの思いを伝え合って遊べるようにかかわったりする。危険な行動や相手を傷つける言葉などについては、場を捉えて知らせる。 ・集団で遊ぶ楽しさや満足感が味わえるように、子ども達の考えやルールを生かして、遊びが展開できるようにかかわる。 ・水や砂、土、泥を使って遊び込めるように、時期に応じて、必要な遊具や用具の数などの調整をして準備する。保育者も一緒に遊びながら、水や砂、泥の感触を楽しみ共感する。 ・園内外の身近な自然の様子から季節の移り変わりに気付けるように、子どもの発見や驚きに共感し、一人一人の子どもの思いを大切に受け止める。 ・自分の物や共同の物を大切にすることを知らせ、扱い方や片付け方を丁寧に知らせると共に、最後までやり遂げられるように見届ける。 ・栽培物の世話を観察を子どもと一緒にしながら、興味関心をもち、植物を大切にしようとする気持ちがもてるようにかかわる。 ・友達に自分の気持ちや考えを言葉で表現できるように、話しやすい雰囲気を作ったり、時には代弁したりしながら、伝え方を知らせていく。 ・遊びや生活の中で必要な言葉や交代や順番の必要性を場面に応じて知らせる。 ・物語の世界のイメージを膨らませ楽しさが味わえるように、いろいろな絵本や物語を繰り返し読み聞かせをする。 ・一人一人の話をじっくり聞き、話の内容に共感して言葉のやり取りをしたり、言葉の使い方や聞く態度などを必要に応じて気付かせていく。 ・自然物を使った遊びを紹介したり、四季折々の自然に関する絵本や図鑑をいつでも見られるようにコーナーを設けたりする。 ・季節の歌や子どもの興味に合わせた曲を用意し、子どもと一緒に歌ったり、体を動かしたり、楽器を打ったりしながら、表現する楽しさを共有していく。 ・いろいろな素材や用具の使い方を知らせ、描いたり作ったりして遊ぶ楽しさを味わえるようにする。
家 庭 と 小 学 校 の 連 携	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症の予防や対応について、保護者に話したり便りを配布したりして、手洗いうがいの励行、バランスの良い食事、十分な睡眠をとることの必要性について知らせる。 ・保育参観を通して、一緒に遊ぶ機会を設けたり、絵本の読み聞かせを推進したりして、親子関係を深めるようにする。また、園での子どもの様子を知らせてもらい、子どもの成長と一緒に喜んで、信頼関係を深めたりしていく。 ・個別懇談などで成長や個の課題などを振り返る機会にし、育ちについて保護者と一緒に共感したり考えたりする。 ・友達とのかかわりが増え、楽しく遊べるようになった反面、自分の思い通りにならないことが増え、トラブルが発生しやすくなる時期であることを、必要に応じて保護者に伝え理解を得る。 ・散歩や園外保育の際、地域の方と挨拶や言葉を交わし親しみをもつ。 ・年長児と一緒に小学校との交流活動に参加する。 	

おもな発達の特徴 5歳児



理念	保育内容（5領域）		おもな発達の特徴
健康な心と体	健康	身体・運動機能	<ul style="list-style-type: none"> ○巧みに体を動かして遊ぶ気持ちよさを感じる。 ○目的に向かって繰り返し挑戦したり、競い合ったり、負けを受け入れたりして、最後までやり遂げる。
		基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> ○園生活に見通しをもって行動する。 ○自信をもち、自分たちで、状況判断をしながら、遊びや生活を進めていく。 ○自分の身の回りの事を自分から、進んで行く。
自信と信頼	人間関係	人とかかわる力 自立心 協同 規範意識など	<ul style="list-style-type: none"> ○友達の良いところや自分とは違う思いや考えを受け入れる。 ○よいことや悪いことを判断しながら、考えて行動する。 ○共通の目的に向かって、自分の役割を果たそうとしたり、友達と協力して進めようとしたりする。
		環境	<ul style="list-style-type: none"> ○身近な動植物に興味関心をもち、命を大切に、友達と一緒に世話をしたり、いろいろな変化に気付いたりする。 ○好奇心や探究心をもち、自然物などにかかわり、性質・数・量の違いなどに気付き、興味関心を深める。 ○遊びや生活の中で文字や数字や時間に関心をもち、
命と自然	言葉	話す力 聞く力 言葉で表現する力 など	<ul style="list-style-type: none"> ○人の話を注意して聞き、自分の考えや思いを相手にわかるように話す。 ○絵本などから想像することや言葉の面白さを知る。 ○身近にある文字や数字に関心をもち、読んだり書いたり使ったりする。
		表現	<ul style="list-style-type: none"> ○経験したこと、感じたこと、考えたことを創意工夫して、いろいろな方法で表現する。

5 歳児

発達 の 主 な 特 徴	<ul style="list-style-type: none"> 生活や活動に見通しをもち、次の動きを考えて自分から積極的に行動する姿が見られる。年長児らしく自信をもって生活する姿が見られる。仲間と一緒に当番活動をしたり、保育者の手伝いを喜んでしたりする。 戸外で遊ぶことを喜び、友達と誘い合って遊びに取り組む。縄跳びや鬼ごっこ、サッカー、マラソンなどの体を巧みに動かして遊ぶことを好んでするようになる。負けて悔しい気持ちを味わうが、「最後まであきらめずに頑張る。」など前向きに取り組もうとする姿勢が見られる。 興味関心のある遊びに、自分なりの目的をもって繰り返し取り組む。友達と教え合ったり競い合ったりして楽しんで遊ぶ。まわりの友達に刺激を受けて、挑戦し始める子どももいる。目的に向かって頑張っている友達を応援したり、できたことを一緒に喜んでたりする姿が見られる。 クラスの友達と協力して活動に取り組む中で、子ども同士がお互いの良さや頑張りなどに気付き認め合い、仲間意識が強くなっていく。そして、それぞれの役割を果たそうと自分の力を発揮し、友達と協力して進めていこうとする姿が見られる。また、遊びを楽しむために自分たちでルールを作って遊びを進めていく。 自分たちで遊びを進めていく中で、子ども同士の思いや考えがの違い、お互いに譲れないことでトラブルになることがある。友達の思いを受け止めようとして、自分の意見や考えを出したりして、調整して自分たちで解決しようとする。次第に、友達と自分とは違う考えをもっていることに気付く、少しずつではあるが自分から我慢したり譲り合ったりして、折り合いをつけようとする姿が見られるようになってくる。 数字や文字に触れる機会が多くなり、読んだり書いたりすることに興味関心が高まるが、個人差がある。 自然現象に興味をもち、感じたことなどを保育者や友達に伝えたり、自然物を遊びの中に取り入れ、試したり工夫したりして遊ぶ姿が見られる。 	
	<ul style="list-style-type: none"> 友達と一緒に巧みに体を動かして遊び、自分の力を発揮したり、友達とのつながりを深める。 自分の目的に向かって根気強く取り組み、満足感や達成感を味わう。 共通の目的に向かって、友達と協力して、達成感や充実感を味わう。 友達と一緒に自然現象を見たり試したり調べたりして、興味関心を高める。 自然物や動植物に興味関心をもち、世話をしたり観察したりして感性を豊かにする。(命の大切さ) 友達と思いや考えを伝え合いながら、一緒に繰り返し遊ぶ楽しさを味わう。 一人一人の成長を認め、年長児としての自信や自覚をもって、健康安全に過ごせるようにする。 	
経験 させ たい 内 容	健康な心と体	<ul style="list-style-type: none"> 健康で安全な生活に必要な習慣や態度を身につけて、自信をもって生活する。 巧みに体を動かして遊ぶ気持ちよさを味わう。 さまざまな遊具や運動用具の使い方の約束を守り、安全に気を付けて使う。 友達と一緒に力を合わせて遊ぶ楽しさを味わい、競い合う中でルールを守り、負けを受け入れながら、繰り返し遊ぶ。 園生活に見通しをもち、自分たちで遊びや生活を進めていく。
	人間関係	<ul style="list-style-type: none"> 友達と一緒に遊ぶ中で、イメージを膨らませたり相談したりしながら、遊びを進めていく。 身近な人や異年齢児の友達と思いやりの気持ちをもって積極的にかかわる。 友達と目的をもち、つながりを実感して遊び、最後まで遊びに取り組む。 友達のよいところを認め、刺激を受けながら意欲的に活動に取り組む。 当番の仲間と協力して、当番の仕事をやり遂げる。 友達と力を合わせる大切さや楽しさに気付く、励ましたり応援したり、応援されたりしながら仲間意識を高める。 自分の考えと相手の考えの違いに気付く、受け入れたり、折り合いをつけたりする。
	環境	<ul style="list-style-type: none"> 身近な小動物を探して遊び、命を大切にすることを学ぶ。 自然の変化に気付く、その美しさや不思議さに感動し、遊びや生活に取り入れる。 植物の栽培に興味関心をもち、生長の変化に気付く。 好奇心や探究心をもって自然物にかかわり、数量や形、色や大きさの違いなどに気付く、関心を深める。 時計や時間に関心をもち、意識して生活しようとする。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> 遊びや生活の中で、文字や数字に関心をもち、 人の話を注意して聞き、自分の考えや思いを相手にわかるように話す。 日常生活の中で、発見や驚きを伝え合ったり、疑問に思ったことを言葉にしたりする。 童話や話の続きに興味をもち、想像しながら楽しんで聞く。
	豊かな表現	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな曲やリズムに合わせて、友達と一緒に踊ったり体で表現したりすることを楽しむ。 音楽に親しみ、友達と一緒に聴いたり、声を合わせて歌ったり、気持ちを合わせて合奏したりする。 経験したこと、感じたこと、考えたことなどをいろいろな素材を使い、工夫して描いたり作ったりする。 自然物を使って造形を楽しむ。
環境 構 成 と 援 助	<ul style="list-style-type: none"> 楽しい雰囲気の中で食事しながら、マナーを意識して食事ができるようにかわり、苦手な食材も健康の為に食べるように励ましたり、頑張りや認めたりして自信につなげていく。 運動遊びや集団遊びを繰り返し、友達同士で良さを認め合ったり、考えを出し合ったりして遊びを進め、状況に応じて遊びが深まるように援助する。 苦手な遊び(経験の少ない遊び)に挑戦しようとする姿を認め、コツを教えたり、励ましたりして、あきらめないでやり遂げようとする気持ちをもてるようにする。 いろいろな活動をやる中で、負けたり、できなかったりした悔しさを感じている姿を受け止め、次への意欲につながるよう気持ちを支えていくと共に、勝ち負けだけにこだわらず精一杯取り組むことの大切さを伝えていくようにする。 活発な子どもや発言力の強い子どもの思いだけが優先されないよう、一人一人の思いや考えが仲間の中で互いに理解されるように配慮する。 子ども同士の思いの違いからトラブルが生じた時には、それぞれの遊びたい気持ちを伝え合う時間を設け、折り合いをつけながら遊びが深まるように一緒に考えるようにする。 就学に向けての期待や不安を受け止めながら、卒園(卒業)までの時間を大切に、一人一人の子どもたちの良さや力を発揮して遊んでいることを認め、生活したり遊んだりする中で、自信がもてるようにする。 遊びの目的やイメージが共通のものになるように、子ども達と相談しながら必要な材料などを探したり選んだりできるように整理し、扱いやすい場所に置く。 収穫したものを自分たちで調理したり、みんなで食べたりすることにより、収穫の喜びや感謝の気持ちがもてるようにする。食べ物を扱う時には、安全面や衛生面に十分留意する。 季節の変化を感じられる事象に目を向け、色や大きさ、形の違いなどの子ども達の気付きに共感し、言葉で伝え合うことにより感性を豊かにしていく。 考えたことや感じたことを言葉でわかりやすく伝えようとしている姿を認めたり、保育者や友達の話をしっかり聞いたり、最後まで聞いてから話すことなどを場面をとらえて指導したりする。 自分が経験したことや感じたこと考えたことをいろいろな方法で表現できる機会を作る。子どもがイメージを膨らませて作って遊べるように、必要な素材を準備し、試したり工夫して作っている姿や豊かな発想を認め共感していく。思うように作業が進みにくい子どもには、発想が膨らむような声かけをしたり、困り感を受け止めたりして、きっかけをつくる。 自然物やいろいろな材料を用意し、自分なりに試したり工夫したりしながら、描いたり作ったりして遊ぶようにする。 	
(小学校等との連携)	<ul style="list-style-type: none"> 感染症や病気の治療などについて早めに家庭に知らせ、健康管理に留意してもらう。 小学校就学に向けて、子どもたちが身の回りのことを自分でする習慣が身に付くよう、一人一人の生活の様子を共有し、生活の連続性を図り、共に育てる気持ちをもつ。 安全な食生活、衛生的な生活の管理など、具体的に園での取り組みや配慮点を保護者に伝えながら、家庭でも意識をもって子どもと共に生活してもらえらるよう、職員同士や家庭と子どもの健康状態を伝え合うように心がける。 友達との遊びの中で、子どもたちが学んでいること、葛藤体験の必要性などを、懇談会や園だより、降園時の連絡などで伝えていく。 飼育や栽培について家庭でも関心をもってもらえるように、園での取り組みを具体的に知らせる。 運動会などの行事に向けての取り組みを進めていく中で、隣接している小学校と連絡を取り合ったり情報交換をしたりしながら、協力し合えるようにする。また、保護者や地域の人、小学生や未就園児などが参加できる内容を取り入れ、交流を図る機会を作り、家庭や地域とのつながりを深めていく。 クラスだよりや園だより、掲示版などで、年長児として意欲的に取り組んでいる姿や成長している姿などを伝え、家庭でも褒めたり励ましたりしてもらい、子どもの自信につなげていくことができるようにする。 小学校の体験入学に参加し、入学への期待を膨らませる機会にする。また、初めての入学を不安に感じている保護者には、具体的な学校の様子や準備について知らせていく機会を設けると共に、就学を控えて不安定になっている子どもの姿を受け止め、過剰な期待などによる不安をもたせないようにする。 小学校就学に向けて、子どもたちが身の回りのことを自分でする習慣が身に付くよう、保護者と一人一人の生活の様子を共有し、生活の連続性を図り、共に育てる気持ちをもつ。 	

4. 発達の特徴と育ちの連続性

理念	保育内容 (5領域)	おおむね6ヶ月未満	おおむね6ヶ月 ～1歳3ヶ月未満	おおむね1歳3ヶ月 ～2歳未満	おおむね2歳児	おおむね3歳児	4歳児	5歳児
健康な心と体	身体・運動機能	<ul style="list-style-type: none"> ○首がすわる。 ○寝返り、腹ばいになる。 ○上下左右に動くものを追視する。 ○目の前の物をつかもうとする。 ○手に触れたものを握る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○座る、はう、つかまり立ち、伝い歩きなど全身を動かす。 ○両手に物を持ったり、引っばったり、つまんだりする。 ○口の中に玩具を入れ、なめたり、噛んだりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○歩けるようになり、探索活動が活発になる。 ○体のバランスのとおり方が上手になる。(しゃがむ、ぶら下がる、跳ぶなど) ○積み、つまむ、転がす、はがすなど手や指を使って遊ぶ。 <p>探索活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○全身を使って、歩く、走る、跳ぶなどの運動をして遊ぶ。 ○指先の機能が発達する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の体をコントロールしながら、走る、跳ぶ、投げる、蹴るなどの運動をして遊ぶ。 <p>体のバランス 協応動作</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ○巧みに体を動かして遊ぶ気持ちよさを感じる。 ○目的に向かって繰り返し挑戦したり、競い合ったり、負けを受け入れたりして、最後までやり遂げる。 <p>あきらめない 失敗は成功のもと</p>	
	基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> ○空腹になると、泣いてミルクをほしがる。 ○おしめが汚れていると、泣いて知らせる。 ○4ヶ月頃から昼と夜の睡眠パターンができる。 <p>愛着関係</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ○離乳食を食べる。 ○いろいろな味に慣れる。 ○自分でつまんで食べようとする。 <p>もぐもぐごっくん おいしいね</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ○離乳が完了し、幼児食を食べる。 ○スプーンやフォークを使って食べる。 ○食べ物の好き嫌いが出てくる。 ○身振りや簡単な言葉で排泄を知らせる。 ○ズボンや紙パンツを自分で脱ぐ。 ○手洗い、鼻がみなどを自分でしようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○スプーンやはしなどを使って、こぼしながらも自分で食べる。 ○衣服の着脱は、裏返し・ボタン掛け・ファスナーなどの仕方を知り、自分でしようとする。 ○衣服の前後が少しずつわかる。 ○ズボンやパンツを着脱する。 <p>じぶんで・・・</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ○食事や排泄は個人差があるが、ほぼ自分でできるようになる。 ○衣服の着脱は、裏返し・ボタン掛け・ファスナーなどの仕方を知り、自分でしようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○手洗い・うがい、衣服の調節など生活に必要な習慣が身につく、自分でできることは自分でする。 ○危険な場所や玩具の安全な使い方を知り、気をつけて遊ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○園生活に見通しをもって行動する。 ○自信をもち、自分たちで、状況判断をしながら、遊びや生活をすすめていく。 ○自分の身の回りの事を自分から、進んで行う。
自信と信頼	人とかわる力 自立心 協同 規範意識 など	<ul style="list-style-type: none"> ○特定の大人にあやしてもらおうと、顔をじっと見たり、声を出して笑ったりする。 ○特定の大人とのスキンシップを喜ぶ。 <p>だっこだいすき</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ○特定の大人とのかかわりができる。 ○後追いをし泣く。 ○人見知りをする。 <p>人見知り</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○保育者や友達とのすることに興味をもち、真似をする。 ○大人の反応を感じながら、よいこと悪いことに気づく。 ○一人遊びをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○保育者や友達と簡単なごっこ遊びを喜んでする。 ○自己主張が強くなり、トラブルが起こる。 <p>自己主張</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○自己主張する。 ○簡単なルールのある遊びをすることで、合図や順番、交代などの約束を知る。 <p>じぶんですよ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○仲間意識が芽生え、友達と誘い合って遊ぶ。 ○ルールの大切さに気づき、交代したり、順番を待ったりする。 <p>いれて いれて</p> <p>がまん</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○友達のよいところや自分とは違う思いや考えを受け入れる。 ○よいことや悪いことを判断しながら、考えて行動する。 ○共通の目的に向かって、自分の役割を果たそうとしたり、友達と協力して進めようとする。 <p>よいこと悪いことの判断</p>
	好奇心 探究心 生活に取り 入れる力 など	<ul style="list-style-type: none"> ○身の回りの物を見たり、音を聞いたり、触れたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○好きな玩具で一人遊びをする。 <p>まんま プー</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ○水、土、砂などの感触を楽しむ。 ○自分の物と友達のものとの区別がつきにくい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○物の大きさや形の違いに気がつく。 ○自分の物を片付ける場所がわかる。 ○虫や草花をじっと見たり触ったりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「おもしろそう。」「やってみよう。」という気持ちを持ち、繰り返し遊ぶ。 <p>おもしろそう やってみよう</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○道具・用具の扱い方を知り、友達と準備をしたり片付けたりする。 ○いろいろな事に興味関心を持ち、やってみようとする。 <p>ねえ、先生、来て 見よって</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○身近な動植物に興味関心を持ち、命を大切に、友達と一緒に世話をしたり、いろいろな変化に気付いたりする。 ○好奇心や探究心をもって、自然物などにかかわり、性質・数・量の違いなどに気付き興味関心を深める。 ○遊びや生活の中で文字や数字や時間に関心をもつ。 <p>最後まで聞こう</p>
豊かな情操と賢さ	話す力 聞く力 言葉で表現 する力 など	<ul style="list-style-type: none"> ○機嫌の良い時に、人や物に反応して、「アーアー」「ウーウー」など喃語を発する。 <p>アーアー ウーウー</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○言葉の意味がわかるようになる。 ○喃語が盛んになる。 ○指差し、身振りなどで気持ちや欲求を表す。 ○好きな絵本を読んでもらい、真似して言葉を発する。 <p>バイバイ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○指差し、身振り、片言、二語文で思いを伝える。 ○興味のある絵本を読んでもらい、言葉を繰り返し言おうとする。 <p>一語文から二語文へ 語尾を真似た片言</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○言葉で自分の思いを伝えようとする。 ○簡単な繰り返しやリズムカルな言葉の絵本を喜ぶ。 <p>よんで・・・ よんで・・・</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○「なぜ」「どうして」と尋ね、いろいろなことに興味関心をもつ。 ○挨拶を自分からする。 ○絵本などを繰り返し見たり聞いたりする。 <p>おはよう ありがとう</p> <p>なぜ どうして</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ○人の話を注意して聞き、自分の考えや思いを相手にわかるように話す。 ○絵本などから想像することや言葉の面白さを知る。 ○身近にある文字や数字に関心を持ち、読んだり書いたり使ったりする。 	
	豊かな感性 や表現力 想像力 描く 作る リズム など	<ul style="list-style-type: none"> ○快・不快を笑ったり泣いたりして、表情の変化や体の動きで表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○興味をもった身近な素材に触れて、感触を楽しむ。 ○歌や手遊びに合わせて、喜んで手や体を動かそうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○いろいろな材料で感覚遊びをする。 ○腕を左右、上下、丸く動かしてなぐり描きをする。 ○リズムに合わせて、体を動かして遊ぶ。 <p>ぐるぐるかくのおもしろい</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○指先を使った遊びやはさみ・クレパスを使って遊ぶ。 ○季節の歌をうたったり、リズムカルに体を動かしたりすることを喜ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○見立て遊びをしたり、意味づけをして遊ぶ。 <p>模倣遊び ごっこ遊び</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ○経験したこと、感じたこと、考えたことを創意工夫して、いろいろな方法で表現する。 	
育ちに向けて/養護	<ul style="list-style-type: none"> ○一人一人の生活リズムに応じて、食欲、排泄、睡眠などの生理的欲求を満たし、健康で安全に過ごせるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○一人一人の子どもに反应的にかかわり、安定した生活リズムの中で、気持ちよく生活が送れるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「自分で」という気持ちに、丁寧に促していきながら、身の回りの事を自分なりにしようとする気持ちが満たされるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○気温の変化や体調に留意し、一人一人の気持ちに共感したり、見守ったりし、安心して健康に過ごせるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自我の芽生えと共に情緒の安定を図り、季節の変化に応じて、保健的で安全な環境を作り、健康に過ごせるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○季節の変化に応じて、健康で安全な環境を作り、進んで自分の事を自分でしながら快適に過ごせるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○一人一人の成長を認め、年長児としての自信や自覚をもって、健康安全に過ごせるようになる。 	

5. 保育園（所）・幼稚園と小学校との連携

学びの連続性について

「津山市における幼児教育の理念と展望」に、「小学校への入学という節目までにすべての子どもが身につけておいて欲しいと願われることがらの水準に関し、幼児教育の内容と方法の検討を進めます。」と示されています。この「津山市における就学前教育・保育カリキュラムの作成」は、このことを実践するものといえます。0歳から5歳までの発達年齢に応じたカリキュラムは、質の高い教育と保育の実践につながり、子どもたちの育ちと学びが小学校へとより滑らかに接続していくことが可能になります。

小学校には複数の保育園（所）・幼稚園の子どもたちが入学していきます。一人一人の子どもが就学前に経験してきたことも多様であり、環境や生活スタイルの違いから、様々な課題があります。

そのため、津山市においては保育園（所）・幼稚園・小学校の相互理解につなげたいと考え、保・幼・小連携研修会を実施し、情報交換を深める機会を設けるなどの取り組みを進めています。

しかし、保・幼・小連携の重要性は認識しているものの、各地域の保・幼・小連携の取り組みの実態は様々であり、これから具体的につながりを深めていくことが課題となっています。

学びの芽生えの時期（乳幼児期）、自覚的な学びの時期（学童期）という発達段階による学び方の違いはありますが、「人とのかかわり」や「ものとのかかわり」という直接的・具体的な対象とのかかわりの中で、乳幼児期と学童期の教育活動のつながりを見通して円滑な移行を図っていく必要があります。

注1)

そこで、保育園（所）・幼稚園と小学校はお互いの違いを認識しつつ、発達や学びの連続性を踏まえ、子どもや職員間の交流、教育内容の交流などを図るとともに、共に考える方向で取り組んでいかなければなりません。

注2)

また、今後、乳幼児期と学童期の教育双方が接続を意識する期間を「接続期」というつながりとして捉え、接続期のカリキュラムについて検討することが必要です。

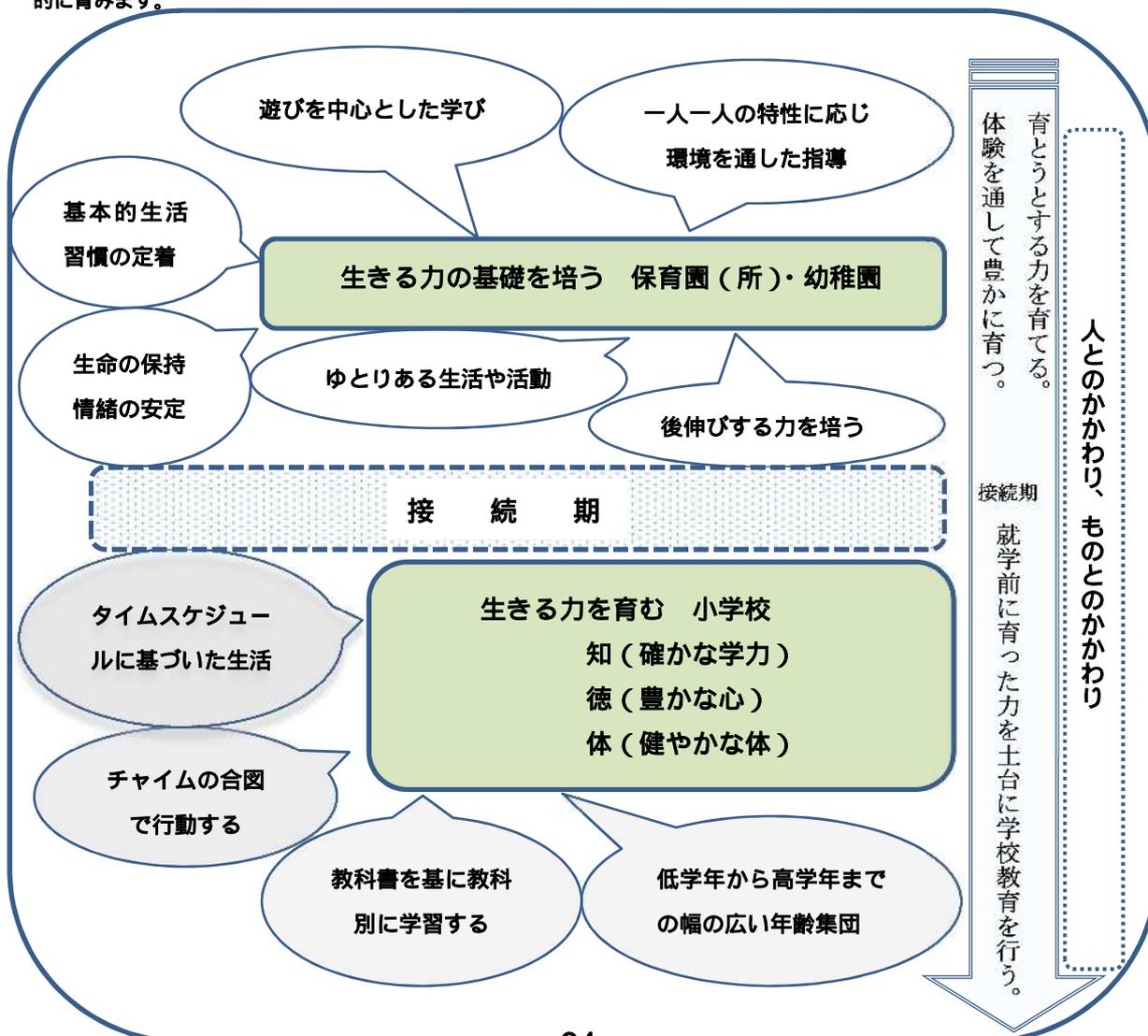
注1) お互いの違い

○保育園(所)・幼稚園

- ・生活や遊びを通した総合的な学びの場です。
- ・子どもたちの「生きる力の基礎」を培うことを目指します。幼児期における保育・教育は、幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行うものです。
- ・生命の保持及び情緒の安定を図ります。
- ・一人一人の育ちを願い子どもの主体的な活動を促し、幼児期にふさわしい生活を展開し、発達に必要な体験をさせます。
- ・子どもたちは「遊び」を通した総合的な学びをし、「学習の芽生え」を育んだり、「後伸びする力」を培ったりします。

○小学校

- ・教室での一斉指導による教科学習が中心になります。
- ・朝の会、帰りの会、授業(45分)、給食、掃除等の時間が定められており、時程にしたがって生活します。
- ・子どもたちの「生きる力」をよりいっそう育むことを目指します。
- ・子どもたちの発達の段階を考慮しつつ、変化の激しいこれからの社会を生きるために、確かな学力、豊かな心、健やかな体の知・徳・体をバランスよく育てます。
- ・基礎的・基本的な知識・技能、思考力・判断力・表現力等及び学習意欲を重視し、学校教育においてはこれらを調和的に育みます。



注2) 接 続 期

保育園(所)・幼稚園(1～3月)から小学校(4～5月頃)の育ちと学びの連続性を図り、見通しをもった指導や支援をする卒園から入学を含んだ時期

特別な支援を必要とする子どもへの支援について

津山市は、保育園（所）・幼稚園に特別な支援を必要とする子どもが増えてきている状況があります。これは、特別支援の理念や発達障害の認識が広がってきたことも要因の一つと考えられます。4歳・5歳頃から特別な支援が必要な状態が顕著にみられるようになるケースや保護者の理解が難しいケースも多く、早期発見・早期理解や、入園（所）の受け入れ体制と就学指導体制の充実が必要です。

保育園（所）・幼稚園は、集団生活の中での育ちの経過や家庭での様子などの状況把握をしたり、保護者への就園（所）指導や就学指導を早期から丁寧に行ったりすることで、保護者の意向を十分傾聴し、保育園（所）・幼稚園と保護者が共に育てていくという意識に立ってつながりを深めることが重要です。

このため、保育園（所）・幼稚園は、一人一人の教育的ニーズに応じた支援に向けて、子どもの実態の見極め方や具体的な支援の手立てを学び、指導技術の向上を図るために、下記のとおり様々な取り組みをしています。

- 特別支援教育の担当者（コーディネーター）を位置づけ、特別支援教育推進の要として、園内支援体制の整備に努めています。
- 県や市の実施する巡回相談等の支援事業を活用し、専門家の指導を受けています。
- 県や市の医療・福祉・教育・関係機関等と連携を図っています。
- 専門家も含めたケース会議の取り組みを始めています。
- 障害児加配（補助員）が配置されている園（所）では、クラス担任や職員間の連携のもとに一貫した支援に努めています。
- 一人一人の子どもの状態や発達段階を把握し、保護者と連携しながら、「個別の教育支援計画」を策定し、さらに「個別の指導計画」を作成し、関係機関や保護者との連携のもと、一人一人に応じた具体的な手立てによって、育ちを促す取組みを進めています。
- 小学校への就学に関して、入学前の情報交換や引き継ぎを行い、津山市の特別支援ネットワークの中で、保健師や医療機関等の協力を得て、小学校と連携して就学指導を行っています。
- 特別支援教育の研修会に参加するよう努めています。

特別な支援を必要とする子どもは、他の子どもと平等に「教育を受ける権利」を享有・行使することを確保するためには、専門性の高い支援体制や指導体制、施設設備への配

慮が必要となります。一人一人を大切にした教育・保育を実践していけるよう保護者・保育園（所）・幼稚園・地域が連携していかなければなりません。

そして、入園（所）・入学という接続の時に重要視し、保護者と保育園（所）・幼稚園・小学校が連携し、一人一人の育ちをつなげていき、特別な支援を必要とする子どもも含めた、すべての子どもを共に育てるカリキュラムとして、「津山市における就学前教育・保育カリキュラム」を運用していきます。

6 . 津山市における就学前教育・保育カリキュラムの活用に向けて

保育・教育実践

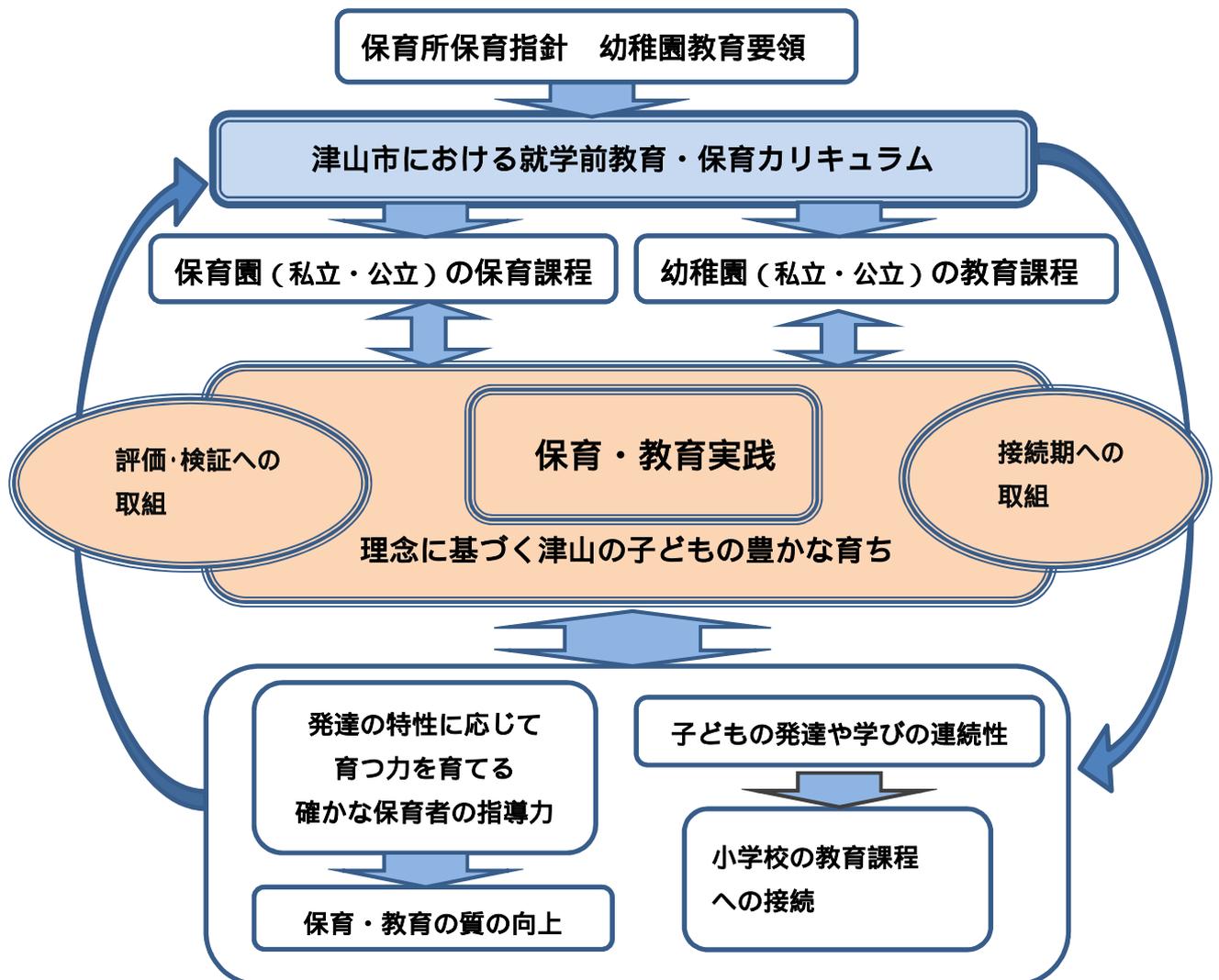
- ・保育課程・教育課程を作成する際の参考にし、保育現場で保育・教育の実践に活かす。

評価・検証への取組

- ・保育園（所）・幼稚園が連携して、保育・教育の実践から、「津山市における就学前教育・保育カリキュラム」の評価・検証をする。このための交流の場を設けていく。

接続期への取組

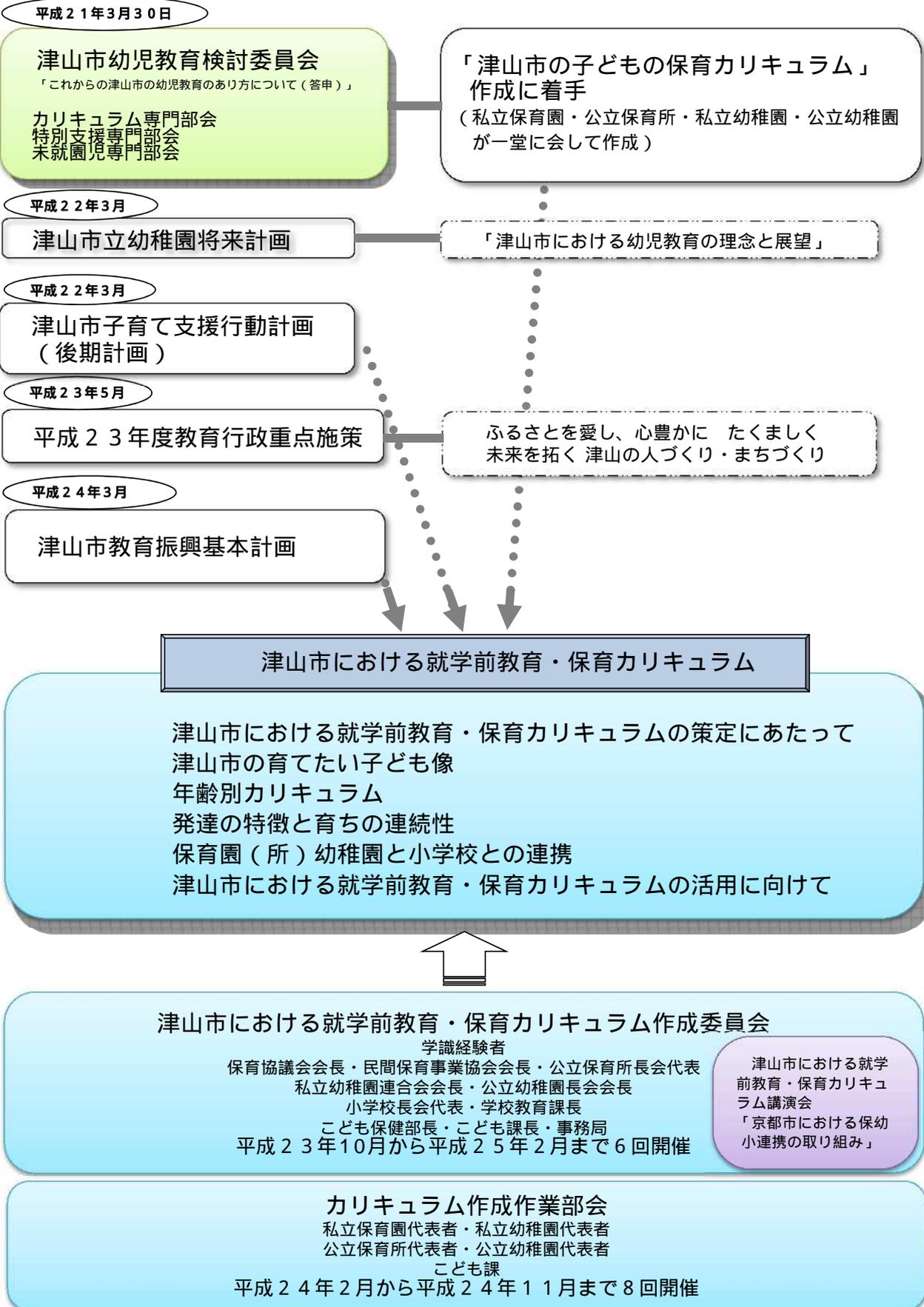
- ・こども保健部と教育委員会が連携し、各地域の保幼小の連携の取組を深める。
- ・各保育園（所）・幼稚園・小学校が、乳幼児保育・教育の合同研修・研究により連携をする。



資料

- ・ 津山市における就学前教育・保育カリキュラム作成の経緯 P . 3 0
- ・ 年齢別カリキュラム作業部会 P . 3 1
- ・ 津山市における就学前教育・保育カリキュラム作成委員会運営規程 . . P . 3 2
- ・ 津山市における就学前教育・保育カリキュラム作成委員会名簿 P . 3 4
- ・ 津山市における就学前教育・保育カリキュラム作成作業部会名簿 . . . P . 3 5

津山市における就学前教育・保育カリキュラム作成の経緯



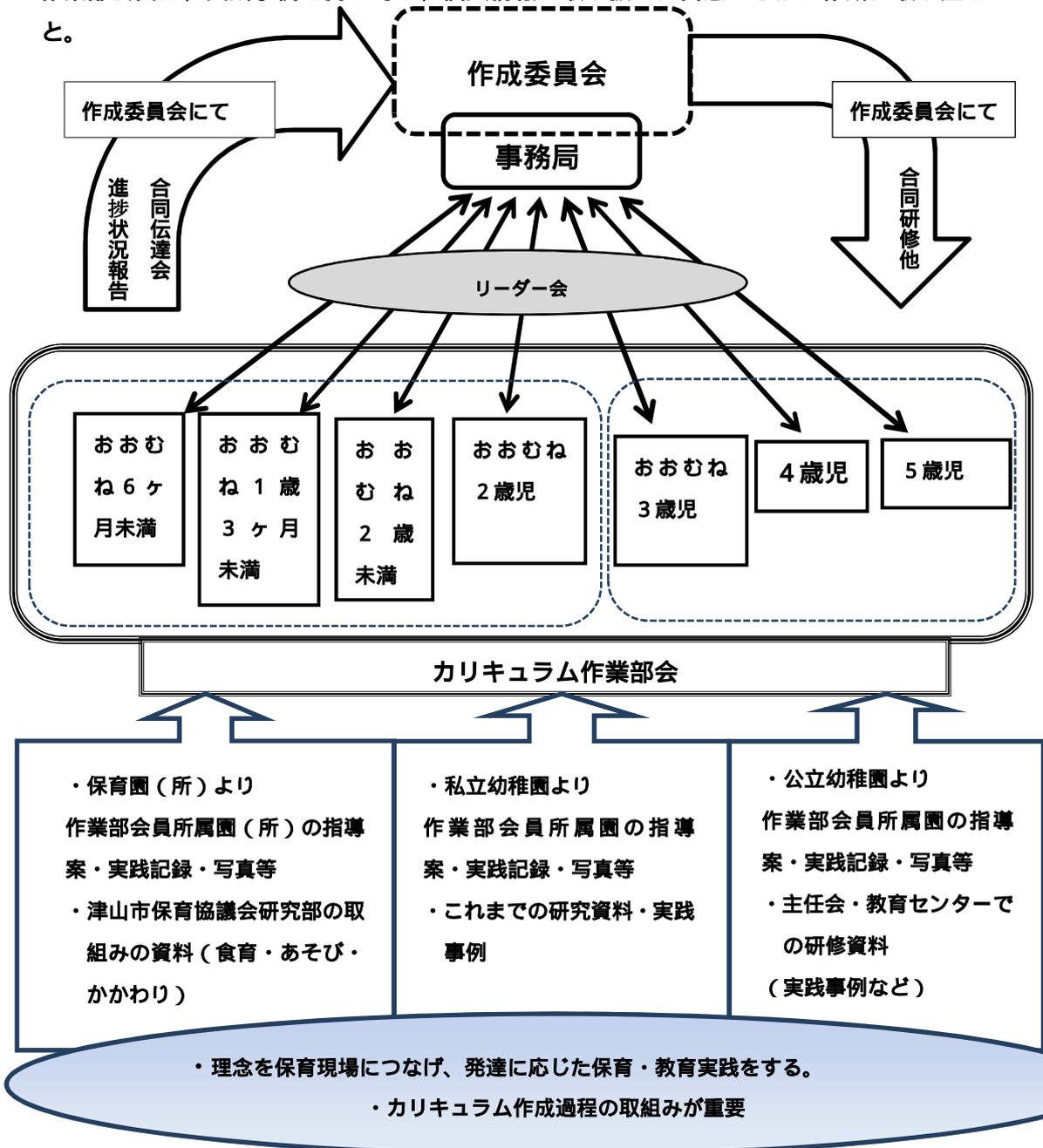
年齢別カリキュラム作業部会

カリキュラムを

津山市の乳幼児保育・教育に携わる者みんなでつくる

リーダー・副リーダーによる「リーダー会」を中心に「作成委員会・作業部会」と連絡を取り合って進めていく。

作業部会員は、実践事例を持ち寄り、個人情報の取り扱いに留意しながら作成に取り組むこと。



津山市における就学前教育・保育カリキュラム作成委員会運営規程

「津山市立幼稚園将来計画」「津山市子育て支援行動計画」《後期計画》「平成 23 年度教育行政重点施策」「津山市教育振興基本計画」(策定中)に基づき、「津山市における幼児教育の理念と展望」を反映した津山市における就学前教育・保育カリキュラムの作成に向けて、就学前教育と保育を担う「公立と私立それぞれの保育園(所)と幼稚園」が一堂に会し、関係機関と共に津山市における就学前教育・保育カリキュラム作成委員会を組織し、津山のすべての乳幼児の健やかな成長を願って、検討を積み重ね津山市における就学前教育・保育カリキュラムを作成する。

現在、各保育園(所)幼稚園では、それぞれの特徴や特色を活かした教育・保育を実践している。このことを尊重しながら、小学校以降の教育につながるよう、保育園にあっても幼稚園にあっても共通に同じ方向を向いて実施できる内容のカリキュラムを作成し、各園(所)校で活用していく。

(目的)

第 1 条 公立と私立それぞれの保育園(所)と幼稚園が一堂に会して取り組むことにより、これまでよりさらにつながりを深めていくこと。

2 「育てたい子ども像」に向けて、0 歳から 5 歳までの子どもの発達の特徴と育ちの連続性と年齢別カリキュラムを明らかにし、津山市における就学前教育・保育カリキュラムを作成すること。

3 保育園(所)幼稚園の教育と小学校教育の接続において発達をつなぐこと。

(所掌事務)

第 2 条 津山市における就学前教育・保育カリキュラム作成委員会の所掌する事務は、次に掲げる事項とする。

(1)津山市における就学前教育・保育カリキュラムの作成及び活用推進に関すること。

(2)津山市における就学前教育・保育カリキュラムの評価及びフォローアップに関すること。

(3)上記事項のほか目的達成に必要な事項に関すること。

(組織)

第 3 条 津山市における就学前教育・保育カリキュラム作成委員会は会長、副会長及び委員をもって構成する。

2 会長は学識経験者をもって充て、会務を総理する。

3 副会長は各公立・私立の保育園(所)・幼稚園の園長の代表をもって充て、会長事故あるときは、その職務を代行する。

4 委員は小学校長代表、学校教育課長及びこども保健部の職員をもって充てる。

(会議)

第 4 条 津山市における就学前教育・保育カリキュラム作成委員会は、会長が必要と認めたときに招集し、これを主宰する。

- 2 津山市における就学前教育・保育カリキュラム作成委員会の会議において必要と認めたときは、委員以外の出席を求め、説明又は意見を聴くことができる。

(作業部会)

第5条 津山市における就学前教育・保育カリキュラム作成委員会に補助機関として作業部会を置く。

- 2 作業部会員は作成委員会が属する部署の職員をもって充てる。作成委員は必要に応じて作業部会に参加する。

(庶務)

第6条 津山市における就学前教育・保育カリキュラム作成委員会の庶務は、こども保健部こども課において処理する。

(その他)

第7条 この規程に定めるもののほか、津山市における就学前教育・保育カリキュラム作成委員会の運営に関し必要な事項は、こども課が別に定める。

付則

この規程は平成23年9月1日から施行する。

津山市における就学前教育・保育カリキュラム作成委員会名簿

委員会の役割	所属・役職等	氏 名	備 考
会 長	学識経験者	松岡 信義	美作大学短期大学部教授
副会長	保育協議会 会長	土居 義幸 故 中村 敬三 (平成23年度)	高野保育園 園長 国分寺保育園 園長
〃	民間保育事業協会 会長	有木 信子	作陽保育園 園長
〃	私立幼稚園連合会 会長	柳 二郎	明星幼稚園 園長
〃	公立保育所長会 代表	吉田さつき	一宮保育所 所長
〃	公立幼稚園長会 会長	杉畑 恭子	東幼稚園 園長
委 員	小学校長会 代表	北山 訓子	喬松小学校 校長
〃	学校教育課長	吉田 英生 小瀬 善浩 (平成23年度)	
〃	こども保健部長	清水 厚子	
〃	こども課長	忠政 堅之	
事務局	こども課指導主査	内田 慶子	
〃	こども課指導囑託員	草苺 淳子	
〃	こども課幼児教育係長	織田 敬子	
〃	こども課こども政策係長	黒瀬 生雄	

津山市における就学前教育・保育カリキュラム作成作業部会名簿

区 分		氏 名	備 考
おおむね6ヶ月未満	保育園	可児 昌恵	東津山保育園主任
		小林 正佳	久米保育所長
		仁木 彰子	高野保育園保育士
		松永 光代	津山乳児保育園主任
	幼稚園	勢渡 基子	二宮幼稚園教諭
こども課	草苅 淳子 内田 慶子		
おおむね1歳3ヶ月未満	保育園	常藤 幸枝	作陽保育園保育士
		頭土 恵子	田町保育園保育士
		藤野 玲子	大崎保育園副主任
		小倉 真理	加茂保育園主任
	幼稚園	齋藤 恵	高田幼稚園教諭
こども課	草苅 淳子 内田 慶子		
おおむね2歳未満	保育園	福嶋 直美	一宮保育所副主任
		藤本 真澄	二宮保育園保育士
		松本 亨枝 (代) 萬代 芳子	福岡保育園長 福岡保育園主任
		前田 敦子	やよい保育園保育士
	幼稚園	中江 圭子	鶴山幼稚園主任
こども課	草苅 淳子 内田 慶子		
おおむね2歳児	保育園	丸尾 美智子	院庄保育園保育士
		定兼 栄子	城西保育園主任
		水島 美樹	高野第二保育園保育士
		宇那木 靖子	田邑保育園主任
	幼稚園	池上 美左子	しらゆり幼稚園長
こども課	草苅 淳子 内田 慶子		

おおむね3歳児	保育園	前原 教恵	津山保育園主任
		岡田 京子	総社保育園主任
		米澤 和恵	KOKKO保育園主任
		有富 裕子	城北保育園主任
	私立幼稚園	大岩 玲子	美作大学附属幼稚園主任
		有元 裕美	明星幼稚園教諭
	公立幼稚園	内田 弘華	河辺幼稚園主任
		宇那木 美穂	加茂幼稚園主任
こども課	内田 慶子 草苅 淳子		
4歳児	保育園	佐倉 咲江	広野保育園主任
		岡本 美幸	勝北風の子こども園 副主任
		植月 瑞恵	林田保育園保育士
		垂井 静江	公郷保育所主任
	私立幼稚園	本郷 順子	美作大学附属幼稚園長
		中西 由美子	しらゆり幼稚園主任
	公立幼稚園	塚本 さつき	成名幼稚園長
		石田 智子	東幼稚園副主任
こども課	内田 慶子 草苅 淳子		
5歳児	保育園	小村 孝子	高倉ひかり保育園 主任
		角野 夏代子	城東保育園保育士
		政安 薫	倭文保育所保育士
		内田 寿栄子	国分寺保育園副主任
	私立幼稚園	柳 純恵	明星幼稚園教頭
		福島 和美	しらゆり幼稚園教諭
	公立幼稚園	廣野 雅子	大崎幼稚園主任
		金澤 真由美	西幼稚園副主任
こども課	内田 慶子 草苅 淳子		

作成を終えて

この「津山市における就学前教育・保育カリキュラム」は、カリキュラム委員会と私立保育園、公立保育所、私立幼稚園、公立幼稚園の代表者である作業部会員の皆様が、共に「津山市の子どもを育てる」という共通認識をもち、熱意と努力で作成することができました。

これは、単に発達を図る目安にするのではなく、一人一人の子どもがその発達の道筋をどのように自分の足で踏み固めながら歩んできているかを知ることに関与して役立てられます。保育者の皆様に、幼児教育の理念の下、愛情あふれる温かい心もちで乳幼児保育・教育の実践に関与していただきたいと願います。

生を受け、育とうとしている子どもの命の重みを感じ、将来の礎となる乳幼児期を任される専門家として、特別な支援を必要とする子どもを含め、どの子どもにも隔てのない愛情を注ぐ保育・教育を実践するために、津山市における就学前教育・保育カリキュラムを生かしていきたいものです。

最後になりましたが、ご協力をいただきました私立保育園、公立保育所、私立幼稚園、公立幼稚園、関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

津山市における就学前教育・保育カリキュラム作成委員会

発行年月 平成25年(2013年)3月

発行 津山市